

# 事業報告書

平成24年度  
(第3期事業年度)

自 平成24年4月 1日

至 平成25年3月31日

地方独立行政法人神奈川県立病院機構



# 目 次

法人の概要	1
1 名称 2 所在地 3 設立年月日 4 設立目的 5 資本金の状況	
6 組織(1) 役員 (2) 職員の状況 (3) 組織図 (4) 会計監査人	
7 業務(1) 病院の設置 (2) 業務の範囲 (3) 病院の位置図	
平成24年度における業務実績報告	
1 法人の総括と課題	4
2 大項目ごとの特記事項	
(1) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	6
(2) 業務運営の改善及び効率化に関する事項	8
(3) 財務内容の改善に関する事項	9
3 病院ごとの取組状況	
(1) 本部事務局	10
(2) 足柄上病院	10
(3) こども医療センター	12
(4) 精神医療センター(芹香病院・せりがや病院)	14
(5) がんセンター	16
(6) 循環器呼吸器病センター	18
4 項目別の業務実績	
第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	
1 質の高い医療の提供	
(1) 医療機能の充実	
ア 足柄上病院	20
イ こども医療センター	21
ウ 精神医療センター 芹香病院・せりがや病院	23
エ がんセンター	25
オ 循環器呼吸器病センター	26
カ 医療機能を評価する指標の設定	28
(2) 医療機器・施設整備の推進	
ア 医療機器整備の推進	33
イ 施設整備の推進	33
(ア) がんセンター総合整備の推進	33
(イ) 精神医療センター総合整備の推進	34
(ウ) その他の施設整備の推進	35
(3) 地域医療連携の強化	35
(4) 臨床研究の推進	
ア 臨床研究	37
イ 治験	38

## 2 安全で安心な医療の提供

- (1) 安全で安心な医療を支える医療体制の整備 . . . . . 3 9
- (2) 医療安全対策の推進 . . . . . 4 0
- (3) 感染症対策の強化 . . . . . 4 1
- (4) 災害対策の推進 . . . . . 4 2
- (5) 情報セキュリティの強化 . . . . . 4 4

## 3 患者の視点に立った病院運営

- (1) 患者にとって分かりやすい医療の提供 . . . . . 4 4
- (2) 県民への病院・医療情報提供の充実 . . . . . 4 8
- (3) 患者の利便性の向上 . . . . . 4 9
- (4) ボランティア・NPOとの協働 . . . . . 5 0

## 4 医療人材の確保と育成

- (1) 医師の確保と育成 . . . . . 5 1
- (2) 看護師の確保と育成 . . . . . 5 2
- (3) コメディカル職員等の確保と研修の充実 . . . . . 5 3
- (4) 勤務環境の改善 . . . . . 5 4

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 1 業務運営体制の確立 . . . . . 5 5

### 2 効率的・効果的な業務運営と経営改善

#### (1) 効率的・効果的な業務運営

- ア 人事・予算の弾力的運用 . . . . . 5 5
- イ 事務職員の専門性の向上 . . . . . 5 5
- ウ 職員の経営参画意識の向上 . . . . . 5 6
- エ ITの活用による効率的な医療提供の推進 . . . . . 5 6
- オ 効率的な事務執行の推進 . . . . . 5 6

#### (2) 経営改善の取組

- ア 収益の確保 . . . . . 5 7
- イ 費用の削減 . . . . . 5 8

### 第3 決算の状況 . . . . . 6 0

### 第4 その他業務運営に関する重要事項 . . . . . 6 1

## 法人の概要

### 1 名称

地方独立行政法人神奈川県立病院機構

### 2 所在地

横浜市中区本町 1 - 2

### 3 設立年月日

平成22年 4月 1日

### 4 設立目的

神奈川県における保健医療施策として求められる高度・専門医療等の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする。

### 5 資本金の状況

出資者（設立団体） 神奈川県

資本金の額 13,556,701,044円

### 6 組織

#### (1) 役員

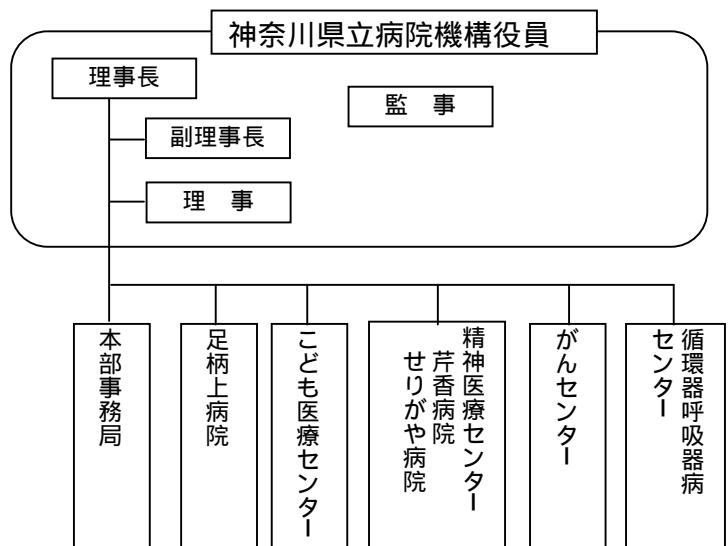
（平成 24 年 4 月 1 日）

役職	氏名
理事長	大崎 逸朗
副理事長	高橋 徳男
理事	山本 裕司（足柄上病院院長）
	康井 制洋（こども医療センター総長）
	岩成 秀夫（精神医療センター所長）
	小林 理（がんセンター総長）
	廣瀬 好文（循環器呼吸器病センター所長）
監事	川島 志保（弁護士）
	戸張 実（公認会計士）

#### (2) 職員の状況（平成24年 4月 1日）

医師	292人
看護師	1,507人
コメディカル職員	280人
事務職・技能職 外	262人
合計	2,341人

職員の増減状況は、8 ページ参照



#### (3) 組織図

右図のとおり

#### (4) 会計監査人

新日本有限責任監査法人

## 7 業務

### (1) 病院の設置

病院名	基本的な機能	診療科目	病床数
神奈川県立足柄上病院 足柄上郡松田町松田惣領 866-1	1 地域の中核的医療機関としての患者の診療(助産を含む。)及び看護 2 検診 3 健康相談及び保健衛生指導 4 医師その他の医療関係技術者の研修	内科、精神科、神経内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科	264
神奈川県立こども医療センター 横浜市南区六ツ川2-138-4	1 疾病を有する小児、妊産婦等の診療及び看護 2 健康相談及び母子保健衛生指導 3 小児医学及び周産期医学に関する調査及び研究 4 医師その他の医療関係技術者の研修 5 障害児入所施設(肢体不自由のある児童に係る病床数(50床)及び重症心身障害児に係る病床数(40床))の運営	母性内科、児童・思春期精神科、神経内科、小児科、循環器内科、アレルギー科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、矯正歯科、小児歯科、歯科口腔外科、麻酔科、病理診断科	419
神奈川県立精神医療センター 神奈川県立精神医療センター 横浜市港南区芹が谷2-5-1 神奈川県立精神医療センター 神奈川県立精神医療センター 横浜市港南区芹が谷2-3-1	1 精神障害者全般の診療及び看護(芹香病院) 2 アルコール依存症患者、薬物依存症患者、神経症患者等の診療及び看護(せりがや病院) 3 精神科医療に関する調査及び研究(芹香病院、せりがや病院) 4 医師その他の医療関係技術者の研修(芹香病院、せりがや病院)	精神科	388
神奈川県立がんセンター 横浜市旭区中尾1-1-2	1 がんその他の疾患患者の診療及び看護 2 がんに関する調査及び研究 3 医師その他の医療関係技術者の研修	血液内科、腫瘍内科、精神科、呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、循環器内科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、腫瘍整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、頭頸部外科、放射線科、放射線治療科、歯科口腔外科、麻酔科、病理診断科、緩和ケア内科	415
神奈川県立循環器呼吸器病センター 横浜市金沢区富岡東6-16-1	1 結核性疾患患者、呼吸器疾患患者及び循環器疾患患者の診療及び看護 2 肺疾患及び心臓疾患に関する専門検診 3 循環器疾患及び呼吸器疾患に関する調査及び研究 4 医師その他の医療関係技術者の研修	呼吸器内科、循環器内科、呼吸器外科、心臓血管外科、麻酔科、放射線科	239

### (2) 業務の範囲

- ア 医療を提供すること。
- イ 医療に関する調査及び研究を行うこと。
- ウ 医療に関する技術者の研修を行うこと。
- エ 児童福祉法に規定する障害児入所施設を運営すること。
- オ 災害時における医療救護に関すること。
- カ 上記に規定する業務に附帯する業務を行うこと。



## 平成24年度における業務実績報告

### 1 法人の総括と課題

地方独立行政法人神奈川県立病院機構（以下「県立病院機構」という。）は、中期目標に基づき作成した中期計画及び平成24年度年度計画の達成に向け着実に取組を進めた。

#### (1) 重点的な取組

##### 精神医療センター及びがんセンターの総合整備の推進（小項目20・21参照）

医療機能の充実、強化を図るため、精神医療センターにおいては、医療観察法に基づき入院治療を行う専門病棟が平成24年11月に開棟するとともに、芹香病院とせりがや病院の一体化に向けた新棟の建設工事を平成24年10月に着工した。また、がんセンターは、平成25年11月の新病院の開院に向け、引き続き建設工事を行った。さらに、平成24年12月には、重粒子線治療装置の建設工事に着手し、計画通りに工事を進めた。

##### こども医療センターにおける施設整備の推進（小項目22参照）

豊富な知識と高度な医療技術を有する医療スタッフの確保及び災害発生時の医療機能の維持を目的とする、医師宿舍の改修工事が平成24年6月に、医療従事者宿舍の新築工事が平成24年9月にそれぞれ完成した。また、平成24年7月に災害発生時の病院機能を確保、維持するための自家用発電装置を更新した。

##### 災害時医療体制の整備の推進（小項目31参照）

足柄上病院は、県西地域の災害拠点病院として、平成25年2月に「神奈川DMAT指定病院」の指定を受け、災害の急性期（災害発生から48時間以内）に活動が可能なDMATを設置し、災害発生時における現場活動、域内搬送、病院支援及び広域医療搬送等を迅速かつ的確に行うための体制を整備した。

##### 小児がん拠点病院の指定に向けた取組

こども医療センターは、これまでの診療実績、患者・家族への緩和ケアや教育支援体制、あるいは横浜市立大学との連携体制の構築など小児がん診療の機能の充実・強化に努めてきたことが評価され、平成25年2月に県内で唯一の小児がん拠点病院に指定された。

##### 感染防止に関する取組（小項目30参照）

県立病院における感染防止対策の推進を図るため、平成24年10月に神奈川県立病院感染防止対策会議を設置し、各病院の感染防止対策に係る課題の集約や、感染防止マニュアルの共有、さらに各病院同士が相互に感染防止対策に関する評価を行うなど、県立病院間の連携を推進した。

##### 病院経営能力等の向上（小項目47・48参照）

病院経営に必要な能力の向上と専門知識の獲得等を図るため、新たに若手事務職員を対象とした病院等現場研修を実施し、幅広い視野を持ち、業務改善に取り組むことのできる職員の育成に取り組んだ。病院機構幹部職員を対象に、病院経営に関する課題の的確な認識、コスト意識の向上、判断のタイミング等、経営者に求められる能力向上を図るための研修を実施した。



## (2) 予算の弾力的な運用（小項目46参照）

総長等の判断により、各所属の運営の実情に応じて予算の範囲内で柔軟に科目間の流用を行うことにより、医療ニーズの変化に応じた適切な病院運営を行った。

## (3) 医療人材等の確保（採用・定着・人事評価）（小項目42・43・47・56参照）

看護師について、採用試験を実施するなど人材の確保に努めるとともに、採用後についてもプリセプターシップをはじめとするきめ細かな研修の実施等により、定着対策に取り組んだ。また、看護師確保対策の1つとして、病院のタイムリーな情報を全国的に広く提供し、採用活動へ繋げるため、平成24年12月からフェイスブックの運用を開始した。（小項目42参照）

事務職や福祉職、コメディカル職種などについて、主に新卒者を対象とした一般試験のほか、即戦力を確保するため、受験者の業務実績を考慮した経験者採用試験を実施した。特に、事務職については、それまでの医療機関経験に限定したのから、医療機関以外の民間企業等での経験も認めるものに変更し、より幅広い人材の確保に努めた。（小項目43・47参照）

また、中長期的に安定的かつ計画的な病院運営を行い、県立病院の役割を果たすため、県立病院における業務に精通した県職員5人を、平成25年4月1日付けで割愛採用した。（小項目56参照）

医師・看護師等医療従事者の業務の特性に応じた「病院に相応しい人事評価システム」を実施し、職員の臨床能力や職務運営能力を的確に把握するとともに、よりステップアップした能力開発や活用に繋げた。（小項目56参照）

## (4) 経営改善の取組（小項目52・54参照）

平成24年度診療報酬改定を踏まえ、各病院の特性に応じた的確に施設基準を取得するとともに、既存の施設基準についても見直しを行い、収益の確保に努めた。（小項目52参照）

一方、費用面においては、薬品及び診療材料の共同入札に引き続き取り組み、診療報酬における薬価、材料の改定率を上回る縮減を行うとともに、その他の消耗品についても、共同購入品目の拡大や関係規程の見直しを行い、多様な購入方法を可能とすることにより、廉価購入を推進した。（小項目54参照）

## (5) 課題

平成23年度業務実績の総括の課題として掲げた「総合整備の推進」、「医療観察法病棟の開棟等」、「収益の確保」及び「職員の経営参画意識の向上」については、平成24年度の業務実績の重点的な取組に位置づけ、取組の強化を図った。

今後とも継続して質の高い医療を県民に提供するため、県立病院機構の医療機能を充実するとともに、新たな課題にも対応できる経営基盤の強化を進める。

### がんセンター総合整備の推進（小項目20参照）

がんセンターは、平成25年11月の新病院の開院に向けて、円滑な移転、運営を行うための計画を策定し、移転リハーサル等を実施することにより、新病院での業務が遂行できるよう計画の進行管理を着実に行う必要がある。また、平成24年12月に着工した重粒子線治療装置の建設工事については、平成26年8月の完成に向けて、引き続き工事を進める必要がある。

### **精神医療センター総合整備の推進（小項目21参照）**

精神医療センターにおいては、芹香病院とせりがや病院の統合に向けて、総合整備後の新しい病院の運用面での具体的な検討を含めて、計画を着実に推進する必要がある。

### **小児がん拠点病院としての取組**

こども医療センターは、県内で唯一の小児がん拠点病院に指定を受け、今後小児がん治療の牽引役となって、県内全体の小児がん診療の質の向上に取り組んでいくことが期待されているため、緩和ケア外来や外来化学療法室を開設するとともに、地域の医療機関や患者・家族への相談支援の充実、他医療機関との役割分担などに基づく地域連携計画の策定、臨床研究体制の充実などに取り組む必要がある。

### **収益の確保（小項目52・53参照）**

県立病院機構全体の医業収益は毎年度増加しており、医業収支比率も改善しているが、病院別には改善状況に大きな差が生じていることから、病院別の計画についてもその達成に向け、地域医療連携の推進により患者数を増加させるほか、診療報酬上の施設基準の着実な取得や未収金の発生防止及び回収などの取組を進める必要がある。

### **職員の経営参画意識の向上（小項目48参照）**

職員個々における経営参画意識の向上を図るため、法人及び各病院の経営状況について、幹部職員のみならず職員全体で情報を共有し、経営改善に向けた取組を進めるとともに、経営実績を反映した予算配当の対象の拡大について検討を行う必要がある。

## **2 大項目ごとの特記事項**

県立病院機構は、県の政策医療の実施機関として、高度・専門医療の提供、地域医療の支援等を行う責務を担っており、その上で、質の高い医療を安全で安心な形で、かつ患者の視点に立って提供していくため、(1)県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上、(2)業務運営の改善及び効率化、(3)財務内容の改善について、の3つの大項目を目標として掲げ、その目標を達成するための取組を行った。

### **(1) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項**

年度計画で掲げた目標を達成するため「質の高い医療の提供」「安全で安心な医療の提供」「患者の視点に立った病院運営」「医療人材の確保・育成」の4つの面から取り組み、医療の充実を図った。

#### **ア 質の高い医療の提供**

##### **足柄上病院（小項目1～3参照）**

地域のニーズに応え、精度の高い消化器の検査・治療を充実するため、消化器内視鏡外来を開設するとともに、内視鏡室を再整備し、地域の中核的医療機関として医療機能の向上に努めた。

##### **こども医療センター（小項目4～6参照）**

他の医療機関では実施が困難な新生児や乳幼児に対する手術の実施、総合的な小児緩和ケアやNICUを中心とした周産期医療の取組など、県内唯一の小児の高度・専門医療機関としての役割を果たすとともに、小児領域の難病、希少疾患の治験において全国で屈指

の実績を挙げた。

#### **精神医療センター芹香病院（小項目7～9参照）**

精神科救急の基幹病院として、救急・急性期医療に積極的に取り組むとともに、ストレスケア医療における復職支援に係る取組を進めた。

また、精神医療センター総合整備事業として、医療観察法病棟（33床）を平成24年11月に開棟し、患者の受入を開始した。

#### **精神医療センターせりがや病院（小項目10参照）**

アルコール・薬物依存症専門病院として、依存症患者への専門治療プログラムの実施などにより依存症医療の充実を図った。

#### **がんセンター（小項目11～14参照）**

長時間、難易度の高い手術の実施、並びに高精度放射線治療装置（リニアック）による放射線治療や外来化学療法、薬剤管理指導を実施するなど、県民に質の高いがん医療を提供するとともに、都道府県がん診療連携拠点病院として、5大がんの共通地域連携パスの取組を進めた。

また、がんセンター総合整備事業として、新病院は平成25年11月の開院を目指し建設工事を進め、重粒子線治療装置の建屋工事については、平成26年8月の完成に向け工事を進めた。

#### **循環器呼吸器病センター（小項目15～17参照）**

循環器と呼吸器疾患について、カテーテルや胸腔鏡下手術などの低侵襲治療を進めるとともに、リハビリテーションを積極的に取り入れるなど、より効果的な医療の提供に努めた。

また、多剤耐性結核対策等総合的な結核医療を継続して実施した。

### **イ 安全で安心な医療の提供（小項目28～32参照）**

医療事故の未然防止・再発防止を図るため、各病院において患者認証システム等による患者誤認防止対策や患者のアレルギー情報の共有などの取組を実施した。また、医療安全推進会議の開催や、医療安全管理に関する職員研修、院内各部門への相談・助言を実施し、安全・安心な医療の推進に努めた。さらに、医療に関する患者からの苦情、相談等に円滑に対応するため、メディエーション研修を実施した。（小項目29参照）

災害時の医療機能の維持や確保を目的として、こども医療センターにおいて医師宿舎の改修工事が平成24年6月に、医療従事者宿舎の新築工事が平成24年9月に完成した。また、自家用発電装置の更新が平成24年7月に終了した。（小項目31参照）

### **ウ 患者の視点に立った病院運営（小項目33～40参照）**

患者の負担軽減や計画的で分かりやすい医療を提供するため、クリティカルパスの作成・見直し等を進めた。また、各病院の地域連携室において、経済的問題や家庭環境等の多様な相談を実施し、患者意見の把握に努め、患者サービスの向上に関する様々な取組を行った。さらに情報発信については、治療方法や実績について、公開講座や広報誌などを通じて県民に幅広く提供するとともに、平成24年12月からは各病院の取組や活動についてフェイスブックによる発信を行った。（小項目33・34・36・37参照）

## エ 医療人材の確保・育成（小項目41～44・47・56参照）

看護師については、全国的な看護師不足の中で必要な人材を確保するため、学生向けの説明会を19回開催するとともに、全病院を対象とする採用試験を7回、特定の病院への配属を目指す配属確定型試験を5回、計12回実施することで、平成25年4月1日現在で1,506人となった。（小項目42参照）

また、事務職や福祉職のほか、薬剤師などのコメディカル職種については、一般採用区分での採用方法と、医療機関等の即戦力としてそれまでの業務実績等を考慮して選考する経験者区分による採用方法の2つの方法により、医療ニーズに対応した人材を確保した。（小項目43・47参照）

さらに、中長期的に安定的かつ計画的な病院運営を行い、県立病院の役割を果たすため、県立病院における業務に精通した県職員5人を、平成25年4月1日付けで割愛採用した。（小項目56参照）

このように、県民に安全で安心な医療を提供し、かつ円滑な病院運営が行えるよう適切な医療人材の確保に努めた結果、常勤職員数は平成25年4月1日現在で前年同期比27人増となる2,368人を確保した。（別表参照）

人材育成では、看護師については、キャリア開発とその支援を行うための研修を実施するとともに、専門看護師、認定看護師等の有資格者をその能力が発揮できるような配置を行い、事務職及びコメディカル職員については、業務の特性に応じた研修を実施する等、その専門能力の向上を図った。（小項目42・43・47参照）

さらに、職員がよりステップアップした能力開発を行えるよう「病院に相応しい人事評価システム」を平成24年度から実施した。（小項目56参照）

### 【職員採用等の状況】

職 種	平成24年度				平成25年度		増減数 B-A
	4月1日職員数 A(うち採用数)	平成24年度中増減要素		3月31日 職員数	4月1日職員数 B(うち採用数)		
		4月2日以降 採用数	退職者等				
医 師	292人 (59人)	11人	73人	230人	296人 (66人)	4	
看護師	1,507人 (180人)	19人	166人	1,360人	1,506人 (146人)	1	
コメディカル	280人 (26人)	8人	10人	278人	305人 (27人)	25	
事務職・技能職 外	262人 (27人)	1人	38人	225人	261人 (36人)	1	
合 計	2,341人 (292人)	39人	287人	2,093人	2,368人 (275人)	27	

## (2) 業務運営の改善及び効率化に関する事項（小項目45～54・56参照）

### ア 業務運営体制の確立（小項目45参照）

県立病院機構独自の人事給与システムを開発・導入し、これまで運用していた神奈川県の人件給与システムの暫定利用から改めた。また、看護部門の積極的な経営参画を目的として、平成25年4月1日付けで看護局長を副院長に登用した。

### イ 効率的・効果的な業務運営（小項目46～50参照）

質の高い安全な医療の実現をテーマとした業務改善について、理事長表彰を実施したほか、所属の特性に応じた所属長表彰を実施した。（小項目48参照）

こども医療センターにおいて、入院部門では平成24年6月から、外来では平成24年9月から電子カルテシステムを稼働させ、医療情報の総合的管理を推進した。その他、各所属

において電子カルテシステムの導入に向けた取組を順次進めた。（小項目49参照）

**ウ 経営改善の取組（小項目51～54参照）**

理事及び監事により構成する経営戦略会議を新たに設置し、各々の収益確保対策や費用の効率的執行に対する取組に係る情報を共有するとともに、細部にわたる意見交換を行う等、経営改善に対する取組を強化した。

こうした取組等により、収益面では、患者数の増加や診療報酬改定を踏まえた施設基準の新規取得や見直しのほか、医療スタッフと事務部門との連携が充実し、医業収益を大幅に増加させた。（小項目51・52参照）

一方、費用面では、後発医薬品の採用拡大や、薬品、診療材料に係る市場価格を踏まえた価格交渉の実施に取り組んだ。さらに、消耗品についても、共同購入品目の拡大やインターネット購入の実施等、廉価購入に向けた取組を進めた。（小項目54参照）

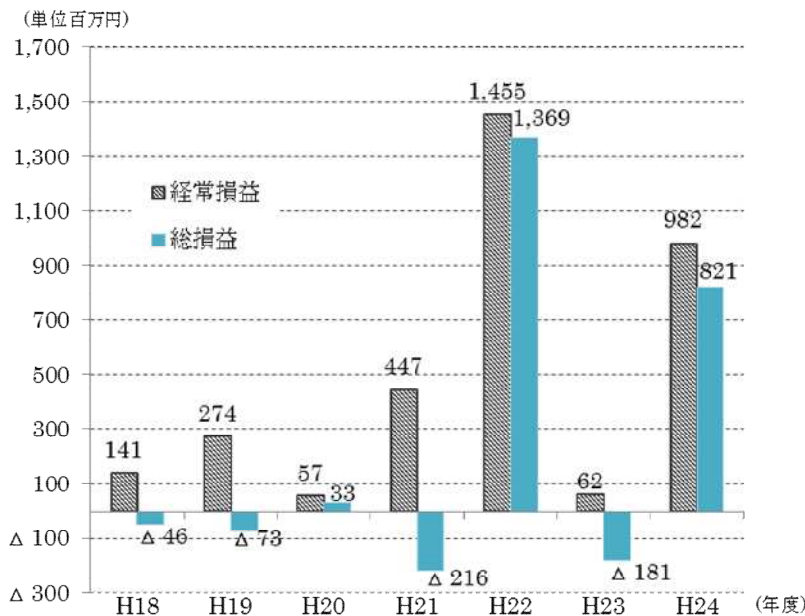
**(3) 財務内容の改善に関する事項（小項目55参照）**

平成24年度は、幹部職員の診療所訪問や、地域医療連携の推進等の取組により新患患者が増加したことなどにより、入院実患者が前年度の5.9%増となったことから、平均在院日数を短縮させながら病床利用率が増加した。また、診療報酬改定を踏まえた施設基準の取得や、がんセンターにおける入院基本料の7対1への転換等により、医業収益を前年度から15億5,700万円増加させた。

これに対し費用については、医師や看護師及びコメディカルの増員による人件費総額の増加を1億7,600万円に止めるとともに、薬品費は9,100万円縮減した。その他、経費の削減にも取り組み、医業費用の増を6億7,500万円に抑制した。

これにより前年度比で、経常損益は9億1,900万円、医業損益は8億8,100万円の大幅な改善となり、健全な経営を行うための計画目標を達成した。

経常収支比率	101.4%以上の目標に対し	102.1%
医業収益に対する給与費比率	69.4%以下の目標に対し	69.2%
医業収支比率	126.4%以下の目標に対し	125.4%



計数は百万円未満切捨てている。

### 3 病院ごとの取組状況

#### (1) 本部事務局（小項目34・42・45・54・56参照）

県立病院機構本部事務局は、経営改善や人材の確保・育成など共通の課題について着実な取組を行った。

##### ア 経営改善への取組（小項目54参照）

財務会計システムを活用した月次決算の実施により、本部事務局で各所属の収支状況を一元把握し、収入、支出両面における管理機能を充実した。

##### イ 人材の確保・育成（小項目42・47・56参照）

修学資金貸付制度の借受生のうち平成24年度の卒業生7人が希望の病院に就職し、確保対策として効果的であったほか、配属確定型の採用試験を実施した。さらに、看護師確保対策の1つとして、病院のタイムリーな情報を全国的に広く提供し、採用活動へと繋げていくことを目的として平成24年12月からフェイスブックの運用を開始するなど、様々な取組を行った。（小項目42参照）

病院経営の中核を担う事務職については、コミュニケーション能力、病院経営分析能力等の養成、強化に関する研修を実施した。また、若手職員を対象に、配属先以外の病院において業務を体験する現場研修を実施した。（小項目47参照）

さらに、医師、看護師その他医療従事者がよりステップアップした能力開発を行えるよう、その業務の特性に応じた「病院に相応しい人事評価システム」を平成24年度から実施した。（小項目56参照）

#### (2) 足柄上病院

足柄上病院は、足柄上地域（1市5町：南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町）を主たる医療圏として急性期医療を担う中核的病院であり、地域に必要な各種政策的医療を提供している。

当該地域は、県内でも高齢化の進んだ地域であるため、「生活習慣病の予防」「がんをはじめとする3大成人病の治療」「生活機能障害に対するケア」などの「高齢者総合医療」に取り組んでいる。

##### ア 医療の充実

###### 救急医療（小項目2参照）

平成24年2月に設置したHCUに重症患者を受け入れ、年間を通じて集中的治療管理を行うなど救急医療の機能充実に努めた。

また、地元消防組合との連携強化のため、消防組合との連絡調整会議を開催することにより、救急業務に係る意見交換、事例検討等を行うとともに、消防組合からの要請に基づき、救急救命士の再教育を行うなどの取組を実施し、救急患者のスムーズな受け入れを図った。

###### 産科医療（小項目3参照）

妊産婦に対するきめ細かい指導を目的とした助産師を活用した取組として助産師外来、母乳育児外来、妊婦とパートナーへの保健指導を行うペアクラス等とともに、助産師主導で正常な妊娠・分娩を介助し、産後まで関わる院内助産システムを推進した。

### 高齢者総合医療（小項目1 - 2参照）

スマイル病棟 に受け入れた高齢者で肺炎や脳梗塞等の患者に対し、医師、看護師及び薬剤師等のコメディカル職員による多職種チームが家族と協力し、疾病により生じる患者の生活機能障害を包括的に評価し、患者に最適な急性期医療を提供するチーム医療を実施しており、退院後の日常生活の質の向上に取り組んだ。

また、スマイル病棟に限らず病院全体で入院後7日以内に多職種によるカンファレンスを実施するなどにより、在院日数の短縮に努めた。

その他、地域における生活習慣病予防対策として医学講座等を開催し、住民の予防意識向上に努めた。

スマイル Smile(微笑) Multidisciplinary(専門的多職種)

Integrate(統合) Listen(傾聴) Empathy(共感) の頭文字をとったもの

### 患者サービスの向上（小項目36参照）

外来用女子トイレを和式から洋式に一部変更するとともに、新たにベビーチェアを設置し、患者のサービス向上に努めた。

また、外来待合に認知症のスクリーニング用として、タッチパネルパソコンによる「もの忘れ相談プログラム」を新たに設置し、既にある全自動血圧計とともに来院者の健康管理の一助とするなど待ち時間を有効に活用できるよう努めた。

## イ 経営の状況

前年度に比べ、収益面では、入院延患者数の増加や診療報酬改定を踏まえた施設基準の取得等により、収益全体で2億3,900万円増加した。

一方、費用面では、後発医薬品への切り替え等による経費削減に取り組んだが、光熱水費や減価償却費の増などにより、費用全体で8,000万円増加した。

この結果、総損失は1億700万円となり、前年度から1億5,800万円減少した。

### 【足柄上病院 経営の状況】

区 分	平成23年度	平成24年度	差引(24-23)
収益計	6,461百万円	6,700百万円	239百万円
営業収益	6,274百万円	6,530百万円	256百万円
うち医業収益	4,679百万円	5,027百万円	348百万円
営業外収益	184百万円	166百万円	17百万円
臨時利益	3百万円	3百万円	0百万円
費用計	6,727百万円	6,808百万円	80百万円
営業費用	6,509百万円	6,638百万円	129百万円
うち医業費用	6,378百万円	6,504百万円	126百万円
営業外費用	174百万円	165百万円	8百万円
臨時損失	44百万円	4百万円	39百万円
総損益	265百万円	107百万円	158百万円
経常損益	225百万円	107百万円	118百万円

\*計数は百万円未満切捨てのため、合算、差し引きは符合しない。

区 分	平成23年度	平成24年度	差引(24-23)	
入 院	延患者数	72,033人	75,815人	3,782人
	実患者数	6,215人	6,384人	169人
	入院収益	3,243百万円	3,554百万円	311百万円
	1人当単価	45,025円	46,889円	1,864円
	病床利用率	74.5%	78.7%	4.2ポイント
外 来	平均在院日数	11.9日	12.2日	0.3日
	延患者数	152,256人	148,753人	3,503人
	外来収益	1,320百万円	1,338百万円	18百万円
	1人当単価	8,673円	8,999円	326円

区 分	平成23年度	平成24年度	差引(24-23)
経常収支比率	96.6%	98.4%	1.8ポイント
医業収益に対する給与費比率	80.9%	76.1%	4.9ポイント
医業収支比率	136.3%	129.4%	6.9ポイント

### (3) こども医療センター

全国でも類を見ない病院部門と福祉部門とが複合した三次医療機関として、また、総合周産期母子医療センターとして、他の医療機関では診療が困難な患者を、他施設からの紹介を基本として県内外から受け入れ、多職種が連携した専門性の高い包括医療を実施した。

また、本県で唯一の小児がん拠点病院に指定され、小児がん治療の牽引役となって、県内全体の小児がん診療の質の向上に取り組んでいくことが期待されるなど、依然として求められるニーズは高いものがある。

#### ア 医療の充実

##### 周産期医療・小児三次救急（小項目6参照）

全国的なNICU不足の中、NICU21床に対し1日平均20.8人を受け入れ、満床に近い状態であった。また、包括的な治療を要する重度の先天異常の患者も200人程度受け入れた中、年間のNICUの受入実患者数は平成23年度の実績に対し、12.4%増加し653人となり、周産期救急の基幹病院としての役割を果たした。

また、救急入院患者数は平成23年度の実績に対し、4.5%増加し1,457人を受け入れ、小児の三次救急の充実に努めた。

##### 小児医療における緩和ケア（小項目5参照）

緩和ケアチームを中心に、患者・家族を精神面で支える取組を実施したほか、患者がより安全にそして苦痛なく処置・検査を受けられるように、麻酔の提供といったアキュート・ペインサービスを実施した。

##### 小児医療における治験（小項目26参照）

小児領域の治験は実施医療機関が限られている中、治験受託件数は平成23年度の実績に対し、5件増加し22件となったほか、希少疾病用医薬品の治験を2件受託するなど、小児領域の治験にあっては全国でも屈指の実績をあげた。

##### 地域医療連携の推進（小項目23参照）

地域の医療機関との役割分担の明確化を図るため、地域医療連携登録を働きかけたところ、登録医療機関は164機関増加し371機関となった。また、訪問看護ステーションの看護師の初回訪問時に同行する退院後訪問を開始したことなどで、小児の受入が可能な訪問看護ステーションが増加した。

##### NPO法人との協働（小項目40参照）

患者のストレスを解消し、治療への勇気を持ってもらうため、NPO法人から全国で2例目となる病院に常駐するファシリティドッグの派遣を受け入れた。また、NPO法人が運営する入院患者の家族滞在施設（リラのいえ）について、利用希望者等からの利用相談や紹介等を通じて、長期入院患者の家族に対する支援を行った。

##### 患者サービスの向上（小項目36参照）

入院患者の療養生活の改善を目的としたバイキング形式による食事会の実施や所内コンビニエンスストアの取扱品目の拡大、コインロッカーの更新等患者サービス水準の向上を図ったほか、肢体不自由児施設の床頭台の免震化による安全対策の充実に取り組んだ。



## 電子カルテシステムの導入（小項目49参照）

関係部門における連携の緊密化、迅速化による医療提供機能の充実、及び症例データの蓄積及び分析による医療の質の向上を図るため、入院部門は平成24年6月から、外来部門は平成24年9月から電子カルテシステムを導入した。

### イ 経営の状況

前年度に比べ、収益面では、入院収益は増加したものの、高額医薬品の院外処方化等による外来収益の減少等により、収益全体で9,200万円減少した。

一方、費用面では、看護師の増員等による給与費や光熱水費等の増加に伴い、費用全体で1億2,700万円増加した。

この結果、総利益は2億1,400万円となり、前年度から2億2,000万円減少した。

### 【こども医療センター 経営の状況】

区 分	平成23年度	平成24年度	差引(24-23)
収益計	15,445百万円	15,353百万円	92百万円
営業収益	15,206百万円	15,166百万円	39百万円
うち医薬収益	11,182百万円	11,283百万円	100百万円
営業外収益	228百万円	176百万円	51百万円
臨時利益	10百万円	9百万円	0百万円
費用計	15,011百万円	15,139百万円	127百万円
営業費用	14,721百万円	14,856百万円	135百万円
うち医薬費用	14,412百万円	14,520百万円	108百万円
営業外費用	236百万円	232百万円	4百万円
臨時損失	53百万円	49百万円	3百万円
総損益	434百万円	214百万円	220百万円
経常損益	477百万円	254百万円	222百万円

\*計数は百万円未満切捨てのため、合算、差し引きは符合しない。

区 分	平成23年度	平成24年度	差引(24-23)	
入 院	延患者数	99,675人	99,195人	480人
	実患者数	6,737人	7,180人	443人
	入院収益	7,645百万円	7,712百万円	67百万円
	1人当単価	76,705円	77,754円	1,049円
	病床利用率	82.8%	82.6%	0.2ポイント
	平均在院日数	15.4日	14.3日	1.1日
入 所	延患者数	28,208人	27,754人	454人
	実患者数	428人	434人	6人
	入所収益	864百万円	878百万円	14百万円
	1人当単価	30,649円	31,668円	1,019円
	病床利用率	85.6%	84.5%	1.1ポイント
平均在院日数	77.9日	77.5日	-0.4日	
外 来	延患者数	152,631人	158,372人	5,741人
	外来収益	2,420百万円	2,418百万円	1百万円
	1人当単価	15,856円	15,270円	586円

区 分	平成23年度	平成24年度	差引(24-23)
経常収支比率	103.2%	101.7%	1.5ポイント
医薬収益に対する給与費比率	73.0%	72.4%	0.5ポイント
医薬収支比率	128.9%	128.7%	0.2ポイント

#### (4) 精神医療センター

##### < 芹香病院 >

精神科救急医療システムの基幹病院として精神科救急病床を県内で最多の16床設置し、救急患者の受入れにおいて積極的に役割を果たすなど精神科救急医療に取り組むとともに、統合失調症、気分障害、神経症性障害などのストレス関連疾患など、依存症を除く様々なこころの障害を対象とした医療を提供している。

#### ア 医療の充実

##### 精神科救急医療等（小項目7～9参照）

精神科救急医療システムの基幹病院として、平成23年度の実績に対し、27.8%増加の138人の措置入院患者受入れを行うとともに、医療観察法の指定医療機関として、通院処遇の患者17人、入院処遇の患者20人（4月～10月救急病棟で2床設置、11月～3月専門病棟で33床設置）を受け入れるなどの役割を担った。また、うつ病・うつ状態の休職者の職場復帰を目的とした通所のリハビリテーションプログラム（復職支援プログラム）を実施し、患者の復職・再就職につなげた。

##### 精神医療センター総合整備（小項目21参照）

医療観察法の入院治療を実施する専門病棟（33床）を整備し、平成24年11月に開棟した。また、既存施設の老朽化や新たな精神科医療への対応を図るため、平成26年度の開棟に向けて建設工事に着手した。

##### 患者サービスの向上（小項目36参照）

患者サービスの向上のため、接遇の研修会を開催するとともに、患者の立場を尊重して対応する「膝をつく看護」を取り入れるなど、話しやすい雰囲気づくりを行うことで満足度の向上を図った。

#### イ 経営の状況

前年度に比べ、収益面では、医療観察法病棟の開棟に伴う入院収益や補助金の増加により、収益全体で4億9,200万円増加した。

一方、費用面では、医療観察法病棟の開棟に伴う看護師等の増員による給与費や材料費等の増加により、費用全体で2億4,600万円増加した。

この結果、総損失が1億3,100万円となり、前年度から2億4,500万円減少した。

#### 【芹香病院 経営の状況】

区 分	平成23年度	平成24年度	差引(24-23)	区 分	平成23年度	平成24年度	差引(24-23)	
収益計	3,461百万円	3,953百万円	492百万円	入 院	延患者数	74,233人	70,681人	3,552人
営業収益	3,438百万円	3,930百万円	492百万円		実患者数	797人	802人	5人
うち医療収益	2,018百万円	2,031百万円	13百万円		入院収益	1,436百万円	1,446百万円	9百万円
営業外収益	17百万円	18百万円	1百万円		1人当単価	19,350円	20,460円	1,110円
臨時利益	5百万円	4百万円	0百万円		病床利用率	65.9%	62.9%	3.0ポイント
費用計	3,838百万円	4,085百万円	246百万円	平均在院日数	123.5日	115.5日	8.0日	
営業費用	3,812百万円	4,038百万円	225百万円	外 来	延患者数	37,480人	36,748人	732人
うち医療費用	3,732百万円	3,935百万円	203百万円		外来収益	564百万円	563百万円	1百万円
営業外費用	9百万円	24百万円	14百万円		1人当単価	15,073円	15,322円	249円
臨時損失	16百万円	22百万円	5百万円					
総損益	377百万円	131百万円	245百万円					
経常損益	366百万円	113百万円	252百万円					

\*計数は百万円未満切捨てのため、合算、差し引きは符合しない。

区 分	平成23年度	平成24年度	差引(24-23)
経常収支比率	90.4%	97.2%	6.8ポイント
医療収益に対する給与費比率	133.5%	139.3%	5.8ポイント
医療収支比率	184.9%	193.7%	8.8ポイント

## <せりがや病院>

依存症・中毒性精神障害の専門病院として、アルコール・薬物依存症の患者に対して治療プログラムに基づく計画的な医療を提供している。

### ア 医療の充実

#### 治療プログラムの充実（小項目10参照）

断酒会等自助グループへの参加が身体的に困難な外来患者等に対する作業療法や、高齢化しているアルコール依存症の患者に対する心身の機能低下の防止を目的とした作業療法を導入するなど、入院治療プログラムの充実を図った。

また、覚せい剤の再乱用防止を図るため、医師、看護師、ケースワーカーがそれぞれの専門性を生かし、認知行動療法や動機付け面接法などを取り入れた包括的な集団治療プログラムであるS M A R P P（Serigaya Methamphetamine Relapse Prevention Program）による治療を実施した。

#### 患者サービスの向上（小項目36参照）

診療枠の拡大に伴う外来患者の増加により患者の待ち時間が延びることが予測されたため、外来に設置してある図書を増やすなど少しでもくつろいで診察が待てるような環境づくりを心がけた。

### イ 経営の状況

前年度に比べ、収益面では、外来延患者数の増加により外来収益は増加したものの、敷地内全面禁煙化の影響等により入院延患者数が減少し、収益全体で600万円減少した。

一方、費用面では、薬品費の増加等により、費用全体で1,700万円増加した。

この結果、総損失が500万円となった。

### 【せりがや病院 経営の状況】

区 分	平成23年度	平成24年度	差引(24-23)
収益計	861百万円	855百万円	6百万円
営業収益	851百万円	845百万円	6百万円
うち医業収益	466百万円	464百万円	2百万円
営業外収益	9百万円	9百万円	0百万円
臨時利益	0百万円	0百万円	0百万円
費用計	843百万円	860百万円	17百万円
営業費用	831百万円	849百万円	18百万円
うち医業費用	821百万円	838百万円	17百万円
営業外費用	11百万円	11百万円	0百万円
臨時損失	0百万円	0百万円	0百万円
総損益	18百万円	5百万円	24百万円
経常損益	18百万円	6百万円	24百万円

\*計数は百万円未満切捨てのため、合算、差し引きは符合しない。

区 分	平成23年度	平成24年度	差引(24-23)
経常収支比率	102.2%	99.3%	2.9ポイント
医業収益に対する給与費比率	125.0%	125.9%	0.9ポイント
医業収支比率	176.0%	180.7%	4.6ポイント

区 分	平成23年度	平成24年度	差引(24-23)	
入 院	延患者数	17,924人	16,279人	1,645人
	実患者数	386人	426人	40人
	入院収益	309百万円	287百万円	21百万円
	1人当単価	17,255円	17,673円	418円
	病床利用率	61.2%	55.8%	5.4ポイント
外 来	平均在院日数	52.3日	42.7日	9.6日
	延患者数	15,023人	16,068人	1,045人
	外来収益	154百万円	173百万円	19百万円
	1人当単価	10,280円	10,818円	538円

## (5) がんセンター

都道府県がん診療連携拠点病院として、外来化学療法、放射線治療などがんに関する高度専門医療を提供する役割を担っている。また、がんセンターの総合整備事業として、平成25年11月の開院に向けたPFI手法による新病院の建設、また平成27年12月の治療開始に向けた重粒子治療装置の整備を進めた。

### ア 医療の充実

#### 都道府県がん診療連携拠点病院の取組（小項目14参照）

がん診療に関する専門医を育成することを目的としたがん専門医臨床研修（後期臨床研修）制度により、平成24年度は5名を採用し、専攻する診療科を中心として研修を実施した。また、都道府県がん診療連携拠点病院としてがん治療の均てん化を進めるため、がん臨床講座や緩和ケア研修など、県内の医療従事者を対象に研修等を開催した。また、地域がん診療連携拠点病院による研修の連携や地域の医療機関も参加できる合同カンファレンスを実施した。

#### がんセンター総合整備の推進（小項目20参照）

平成25年11月の新病院開業・診療開始に向けて、平成23年度に着手した建設工事は計画通りに工事を進めた。また、SPCとの運営協議や医療機器・備品の調達準備等についても効率よく進めた。

平成27年12月を予定している重粒子線治療の開始に向け、平成23年度から行っている施設の実施設計を完了し、平成24年12月に建設工事に着手した。また、重粒子線治療について広く知ってもらうため、平成25年2月に県民を対象とした講演会を開催した。

#### 安全で安心な医療の提供（小項目28参照）

7対1看護体制による手厚い看護を整備するとともに、褥瘡管理者を中心とした褥瘡対策チームによる褥瘡発生防止に努め、定期的な回診や職員間の勉強会の開催、また体位変換枕やクッション、マット等の予防用品の整備や褥瘡対策マニュアルの改定など、褥瘡発生防止対策に関する取組を推進した。

#### 患者の視点に立った病院運営（小項目33・34参照）

クリティカルパスを利用して治療内容を説明する等、患者への十分な説明と同意による医療（インフォームドコンセント）を推進するとともに、クリティカルパスの適用拡大を図り、新規で5件のクリティカルパスを作成し、平成24年度は37件となった。（小項目33参照）

また、地域医療連携室等では、経済的問題や家庭環境に係る医療福祉相談等、多様な相談に対応し、また、がんセンター相談支援室及び神奈川がん臨床研究・情報機構情報センターにおいて、がんに関する医療・福祉等の幅広い電話相談に応じた。（小項目34参照）

#### 患者サービスの向上（小項目39参照）

平成25年2月にクレジットカードが取扱可能な自動精算機を更新したことにより、クレジットカードの利用の増加や窓口でのカード利用者の一部を自動精算機に案内できたことから、会計窓口での待ち時間の短縮が図られるなど、患者の利便性の向上に繋がった。

## イ 経営の状況

前年度に比べ、収益面では、一般病棟入院基本料の7対1への転換やリニアックの通年稼働等により、収益全体で10億4,700万円増加した。

一方、費用面では、給与費や薬品費は減少したものの、診療材料費の増加等により、費用全体で1億4,400万円増加した。

この結果、総利益は9億4,200万円となり、前年度から9億300万円増加した。

### 【がんセンター 経営の状況】

区 分	平成23年度	平成24年度	差引(24-23)
収益計	13,012百万円	14,059百万円	1,047百万円
営業収益	12,918百万円	13,969百万円	1,050百万円
うち医業収益	10,486百万円	11,568百万円	1,082百万円
営業外収益	88百万円	84百万円	4百万円
臨時利益	6百万円	6百万円	0百万円
費用計	12,972百万円	13,117百万円	144百万円
営業費用	12,801百万円	12,944百万円	142百万円
うち医業費用	12,493百万円	12,624百万円	131百万円
営業外費用	60百万円	81百万円	20百万円
臨時損失	110百万円	91百万円	19百万円
総損益	39百万円	942百万円	903百万円
経常損益	144百万円	1,027百万円	883百万円

\*計数は百万円未満切捨てのため、合算、差し引きは符合しない。

区 分	平成23年度	平成24年度	差引(24-23)	
入 院	延患者数	109,654人	117,773人	8,119人
	実患者数	7,967人	8,703人	736人
	入院収益	6,556百万円	7,384百万円	828百万円
	1人当単価	59,791円	62,703円	2,912円
	病床利用率	72.2%	77.8%	5.6ポイント
	平均在院日数	14.3日	14.0日	0.3日
外 来	延患者数	162,030人	177,312人	15,282人
	外来収益	3,669百万円	3,877百万円	207百万円
	1人当単価	22,650円	21,868円	782円

区 分	平成23年度	平成24年度	差引(24-23)
経常収支比率	101.1%	107.9%	6.8ポイント
医業収益に対する給与費比率	57.9%	52.2%	5.7ポイント
医業収支比率	119.1%	109.1%	10.0ポイント

## (6) 循環器呼吸器病センター

狭心症や心筋梗塞等の循環器疾患、肺がんや気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患等の呼吸器疾患について、専門医療機関として、高度専門医療の強化・充実に努めている。

また、多剤耐性結核対策等の総合的な結核医療を継続的に実施し、社会的使命を果たしている。

### ア 医療の充実

#### 総合的な循環器医療の推進（小項目15参照）

医療の高度化や心疾患の複雑化が進む中、循環器内科、心臓血管外科、麻酔科、リハビリテーション部門等が強く連携し、予防から治療に至る総合的な循環器医療に取り組んだ。特にP C I及びカテーテルアブレーションについては、前年度より実績を伸ばし、また、心臓手術についても、心臓弁膜症をはじめ、難易度の高い手術について良好な成果を収めた。

#### 肺がん治療等の強化（小項目16参照）

新しい放射線治療装置が平成24年8月に稼働したことにより、肺がん患者に対する手術、放射線照射、抗がん剤による化学療法を組み合わせる効果的に行う集学的治療への対応を進めた。

また、間質性肺炎については、抗線維化薬を積極的に導入するなどにより、県外からも患者を受け入れており、新規外来患者数は平成23年度の実績に対し、42人増の218人となった。

#### 結核対策（小項目17参照）

結核患者の高齢化が進んでいることから、退院後の継続治療が確実に実施できるよう地域の福祉保健センター等と定期的にカンファレンスを行うなどの取組みを進めた。

#### 医療機器の充実（小項目19参照）

集中治療部門生体情報管理システムや手術器具滅菌装置等を更新し、患者に対し安全できめ細やかな医療を提供するとともに、より高度な院内感染防止体制を構築するなど、医療機能の充実強化を図った。

#### 患者サービスの向上（小項目36参照）

施設の老朽化が進む中、病棟の洗面台、トイレ等のアメニティの改善や来客用駐車場のライン引き直し、外来診察室の出入扉の改修工事を行うなど、患者等の利便性と安全性の向上を図った。

また、患者の待ち時間の負担軽減に向け、外来待合室の大型ディスプレイによる案内情報の充実を図った。

### イ 経営の状況

前年度に比べ、患者単価の増により外来収益は増加したものの、入院収益の減等により、収益全体では2,300万円減少した。

一方、費用面では、材料費は減少させたものの、光熱水費や減価償却費の増加に伴い、費用全体で5,200万円増加した。

この結果、総利益は1億9,500万円となり、前年度に比べ7,500万円減少した。

【循環器呼吸器病センター 経営の状況】

区 分	平成23年度	平成24年度	差引(24-23)
収益計	6,792百万円	6,769百万円	23百万円
営業収益	6,656百万円	6,649百万円	6百万円
うち医業収益	5,228百万円	5,243百万円	15百万円
営業外収益	132百万円	116百万円	15百万円
臨時利益	4百万円	3百万円	0百万円
費用計	6,521百万円	6,574百万円	52百万円
営業費用	6,322百万円	6,412百万円	89百万円
うち医業費用	6,171百万円	6,259百万円	88百万円
営業外費用	145百万円	135百万円	9百万円
臨時損失	53百万円	26百万円	27百万円
総損益	271百万円	195百万円	75百万円
経常損益	320百万円	218百万円	102百万円

\*計数は百万円未満切捨てのため、合算、差し引きは符合しない。

区 分	平成23年度	平成24年度	差引(24-23)	
入 院	延患者数	65,879人	63,014人	2,865人
	実患者数	4,398人	4,462人	64人
	入院収益	3,523百万円	3,488百万円	34百万円
	1人当単価	53,483円	55,367円	1,884円
	病床利用率	75.3%	72.2%	3.1ポイント
平均在院日数	15.5 日	14.6 日	0.9日	
外 来	延患者数	90,567人	89,767人	800人
	外来収益	1,502百万円	1,576百万円	74百万円
	1人当単価	16,587円	17,560円	973円

区 分	平成23年度	平成24年度	差引(24-23)
経常収支比率	105.0%	103.3%	1.6ポイント
医業収益に対する給与費比率	54.6%	55.1%	0.5ポイント
医業収支比率	118.0%	119.4%	1.4ポイント

#### 4 小項目別の業務実績

### 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

#### 1 質の高い医療の提供

##### (1) 医療機能の充実

##### ア 足柄上病院

地域の中核的医療機関としての取組（小項目1）

- ・専門外来を設置し、専門的な診療、治療に取り組むとともに、救急体制を強化し、救急患者の受入れを行うなど地域の医療ニーズに対応した。
- ・平成24年5月に消化器内視鏡外来を設置し、平成25年1月には内視鏡室の整備拡充に取り組み、増加する内視鏡検査及び治療件数に対応した。
- ・平成24年度の内視鏡検査は3,608件で平成23年度3,234件と比べ374件増加した。内視鏡治療件数は平成24年度748件で平成23年度605件と比べ143件増加した。
- ・平成24年4月から医師(非常勤)1名増員により外来診療日を週1日から2日に増やすとともに、理学療法士1名を増員し、診療体制及びリハビリ体制の充実を図った。

平成24年度の外來患者数は延870人で平成23年度760人と比べ110人増加するとともに、リハビリ実施人数も平成24年度は延18,136人で23年度16,680人と比べ1,456人増加した。また、地域ニーズを踏まえ、平成24年8月に装具外来を新設した。

高齢者総合医療の推進（小項目1-2）

- ・スマイル病棟は医師・看護師・薬剤師、理学療法士、管理栄養士、社会福祉士などと家族が協力し、疾病によって出現する個々の患者の生活機能障害を、チームとして包括的に評価し、個々にとって最適な急性期医療を提供することを目的としている。

[スマイル病棟による高齢者総合医療の実践]

スマイル病棟に受け入れた高齢で肺炎・脳梗塞等の患者について、バーセルインデックスにより入院中の生活機能の変化を比較し、退院後の機能維持向上に活用している。

また、入院時から地域医療連携室が関わり、地域医療機関や家族と連絡をとり、共同指導や家族指導等を通じて退院支援を行っている。

スマイル病棟に限らず、病院全体で入院後7日以内に多職種によるカンファレンスの実施を行うことなどにより、在院日数の短縮に繋がっている。

誤嚥性肺炎の予防のため、口腔ケアや嚥下訓練等を行い、必要に応じて嚥下内視鏡検査を行い、嚥下状況を確認し食事を選択している。

[スマイル病棟患者数の実績]

区分	平成23年度	平成24年度
実患者数	118人	115人
平均在院日数	18.8日	13.6日
延べ患者数	1,995人	1,248人

[高齢者総合医療を目指すその他の取組み]

地域における生活習慣病予防対策として、地域住民の要望に応え、医学講座等を開催するなど住民の予防意識向上に努めている。

医学講座等の開催回数 平成24年度 19回  
平成23年度 13回



### 救急医療の取組（小項目 2）

- ・足柄消防組合の要請に基づき、救急隊救急救命士の再教育実習を受け入れたほか、連絡調整会議を開催し、救急業務に係る意見交換や事例研究を行うなど連携を強化し、救急体制の充実を図った。
- ・HCU設置に向けて体制を整備し、平成24年2月に運用を開始した。平成24年度患者数は延885人であった。

[年間救急受入の実績]

区分	平成23年度	平成24年度
救急依頼件数	12,439件	12,281件
救急受入件数	11,808件	11,744件
入院患者数	2,360人	2,619人

救急依頼件数と救急受入件数の差分は受入できなかった件数  
平成24年度537件（平成23年度631件）

### 産科医療体制の充実（小項目 3）

産婦人科医師の必要数の確保に向けて取り組んできた中で、引き続き産婦人科医師の負担軽減を図るため、院内助産システムにより助産師主導の分娩を実施した。

また、助産師は週3回助産師外来で妊婦健診や保健指導を行い、さらに週1回母乳育児外来で乳児健診等の業務を行うなど、妊婦・分娩・育児に必要な知識や情報を提供し、妊産婦との信頼関係を築くよう心がけている。

[分べん件数（助産師分べん件数）の実績]

区分	平成23年度	平成24年度
分べん件数	171件	178件
うち助産師分べん件数	154件	155件

## イ こども医療センター

### 手術体制の充実（小項目 4）

・前年度の課題であった眼科科長の確保はできたものの、医師の欠員が生じた循環器内科で件数が平成23年度の414件から308件に減少するなどしたため、手術件数全体では、目標値3,800件に対し3,568件と93.9%の達成率に留まった。

また、心臓血管外科手術は循環器内科の診療体制が十分に整わなかったことなどで、目標値400件に対し332件と83.0%の達成率に留まった。

・新生児手術件数、乳児外科施設基準対象手術件数は、心臓血管外科の手術件数の減少の影響もあり、それぞれ目標値160件に対し128件と80.0%、目標値105件に対し77件と73.3%の達成率に留まった。

[手術件数の実績]

区分	平成23年度	平成24年度
手術件数	3,584件	3,568件
うち心臓血管外科手術	404件	332件
うち新生児手術件数	143件	128件
うち乳児外科施設基準対象手術件数	112件	77件

### 小児医療における緩和ケアの取組（小項目 5）

・前年度に引き続き、専従の医師を中心に専門・認定看護師、臨床心理士、薬剤師から構成される緩和ケアチームにより小児緩和医療の体制整備を継続した。また、緩和ケア

チームでは、定例カンファランスを40回開催し、個々の症例における身体的、精神的苦痛、通学や就労などの問題といった社会的苦痛に対する最適な緩和ケアについて、検討・提供を行ったほか、症状緩和に関する電話相談にも応じた。

- ・さらに緩和ケアチームを中心とした緩和ケア検討会議を7回開催し、症例検討、ファミリードッグ活用推進、療養環境の向上などを広範な視点から討議した。

- ・地域医療連携登録医療機関、訪問看護ステーション、こども医療センター職員を対象に小児緩和ケアセミナーを2回開催した。

- ・「より安全にそして苦痛なく」侵襲を伴う処置、検査を受けられるように、手術室外にも持ち出せるコンパクトな全身麻酔器を使用し、麻酔科専門医による麻酔処置の提供といったアキュートペインサービスを実施した。また、センター職員を対象にセミナーを1回開催した。

(アキュートペインサービスの実施内容)

侵襲の強い処置に対する全身麻酔提供 12件

P C A (自己調節鎮痛法)ポンプを用いた症状緩和 17件

手術後の疼痛緩和 139件

(手術後の疼痛緩和については、乳幼児に対してもより積極的に実施した。)

周産期救急医療・三次救急医療の取組(小項目6)

- ・全国的なNICU不足の中、NICU病床21床に対し、前年度比0.4人増の1日20.8人を受け入れており、常時満床に近い状態にある。また、包括的な医療を要する重度の先天異常の患者も毎年200人前後受け入れている。

こうした中、NICUの受入実患者数は、平成24年10月から地域医療連携室に退院調整専従の看護師を配置した効果で、目標値の600人に対し653人に達し、達成率は108.8%となった。一方、超低出生体重児入院件数は、目標の55件に対し33件に留まった。

- ・依頼医療機関から斡旋医療機関への新生児搬送件数は、目標値と同値の25件、また、NICUから他医療機関への転院(戻り搬送)患者数は、目標の100件に対し、93件に留まっている。

- ・救急受入件数はより緊急性の高い入院患者の受入が前年度比63人増の1,457人に達しており、三次救急医療機関としての役割を果たしている。

[周産期救急等の実績]

区分	平成23年度	平成24年度
N I C U 受入実患者数	581人	653人
超低出生体重児入院件数	42件	33件
依頼医療機関から斡旋医療機関への新生児搬送件数	17件	25件
N I C U から他医療機関への転院(戻り搬送)患者数	78人	93人
救急受入件数	5,214件	4,898件
うち入院患者数	1,394人	1,457人

## ウ 精神医療センター 芹香病院・せりがや病院

### (芹香病院)

#### 精神科救急医療の取組(小項目7)

・神奈川県精神保健福祉センター及び4県市(神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市)により構築された精神科救急医療システムにおいて、精神科の専門病院として精神科救急の基幹病院の役割を果たすとともに、精神科救急医療システム連絡調整会議などを通して密接な連携を図り、措置入院患者や急激な精神症状の悪化が見られ入院が必要な患者を積極的に受け入れた。

#### [精神科救急件数の実績]

区分	平成23年度	平成24年度
措置入院患者	108件	138件
急激な精神症状の悪化が見られ入院が必要な患者	46件	46件

・4県市が実施している精神科救急医療システムで、自傷他害の恐れのある精神障害者に対する「精神科24時間救急の病床」を確保している基幹病院は7病院あり、芹香病院は最大の病床を確保し、基幹病院の中でも中心的な役割を担っている。

院内で連携を図ることにより、「精神科24時間救急の病床」を常時確保できるよう受入体制を整えた。

#### ストレスケア医療の取組(小項目8)

・反復性経頭蓋磁気刺激法の開発については、平成24年度は11人(平成23年度以前との合計82人)の患者の協力を得て、気分障害への効果及び安全性について検証するため、実証実験を行うなど先進医療の認定に向けて研究を進めた。

#### 反復性経頭蓋磁気刺激法(rTMS)

8の字型のコイルに電流を流すと周囲に磁界が発生し、その作用で脳の一定の部位に微弱な電流が生じる。それにより脳の神経細胞を刺激して機能を調整する。

・うつ病、うつ状態による休職者や離職者の職場復帰を目的とした通所によるリハビリテーションプログラム(復職支援プログラム)を、認知行動療法や作業療法などを組み合わせ、医師のほか臨床心理士、作業療法士など多職種による治療プログラムにより、1グループ定員が12人程度、4ヶ月間を1クールとして、年4回実施した。

プログラム実施を転機として離職者も含めたプログラム修了者19人中17人が復職又は就職することができた。

プログラムでは、利用者の職場の方との面接を実施し、プログラムの意義や内容を共有化した。

#### (参考)[復職支援プログラム実施患者数実績]

平成23年度	平成24年度
実患者37人 延1,321人	実患者32人 延1,245人

・地域のクリニック等の職員を対象にうつ病についての講演会やストレスケア病棟の見学会を3回実施するとともに、クリニックを訪問し、ストレスケア病棟の紹介などを行った。

・うつ病予防のための県民向けの公開講座を次のとおり実施した。

期 日 平成25年1月20日(日)

テーマ 「こころの健康を考えてみませんか」

受講者 202人

・思春期を対象とした精神科医療の実施に向け、日本精神科看護技術協会(領域:児

童思春期精神看護)などの研修に職員を派遣し、協会の研修を受けた職員のうち1名が試験に合格し、精神科認定看護師の認定を受けた。

#### 医療観察法病棟の整備(小項目9)

- ・医療観察法に基づく指定通院医療機関として、多職種チーム(医師、看護師、精神保健福祉士、臨床心理士、作業療法士等)を4チーム編成して、患者の症状に応じた個別治療計画を策定し、手厚い医療を関係機関の要請に基づいて積極的に実施した。
- ・医療観察法に基づく医療提供を円滑に実施するため、かながわ司法精神医療福祉ネットワーク会議(年4回)を主宰し、県内の医療観察法の指定医療機関や保護観察所、社会福祉施設等との連携を図った。

〔指定通院医療機関の実績(延べ患者数)〕

平成23年度実績	平成24年度実績
延1,315人	延1,054人

- ・「精神医療センター総合整備計画」に基づき、医療観察法に基づく指定入院医療機関としての機能整備を推進するため、入院治療を実施する専門病棟(33床)の建築工事を進め、平成24年11月から運用を開始した。

また、病棟運営に必要な看護師については、その確保に努めるとともに、専門的な知識の習得のため他病院への交流研修を実施した。

- ・医療観察法に基づく医療の質の向上及び均てん化を図るため芹香病院の多職種チームが指定医療機関を訪問するとともに、他の指定入院医療機関からも職員を受け入れ、医療体制等に係る評価や課題への助言等の技術交流を行った。

【医療観察法病棟の概要】

病床数	33床
建築面積	1,768.15㎡
延床面積	2,998.75㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造 2階建

#### (せりがや病院)

アルコール・薬物による依存症医療の取組等(小項目10)

- ・アルコールや覚醒剤等の薬物による依存症を対象として、ミーティング等を取り入れた治療プログラムや家族教室を実施したほか、受診の前日に電話連絡するなどきめ細やかな患者対応に努め、外来患者の受け入れに取り組んだ。

また、依存症医療における地域との連携・協力を進め、初診患者の紹介率を高めて、初診患者の増加に努めることとした。

アルコール家族教室 年間21回 第1・第3木曜日

薬物家族教室 年間24回 第2・第4木曜日

〔外来初診患者数の実績〕

区分	平成23年度実績	平成24年度実績
外来初診患者数	延707人	延744人

〔初診患者の紹介率の実績〕

平成23年度実績	平成24年度実績
34.9%	38.8%

・SMARPPの内容を充実させるため、依存物質（処方薬、覚醒剤等）によりグループを細分化し、グループ数を増加させた。これにより参加患者数が増加した。

SMARPP（Serigaya Methamphetamine Relapse Prevention Program）とは、海外で有効性が確認されている覚せい剤依存症に対する総合的外来治療プログラムを我が国の実情に沿った形で、せりがや病院で修正したものである。

（参考）[ SMARPP実施患者数の実績 ]

平成23年度		平成24年度	
実患者数97人	延790人	実患者数138人	延1,110人

・県と連携して、県内の中学校、高校等で開催される薬物乱用防止教室に職員を派遣し、啓発活動を行った（実績 延27施設、6,701人）。社会的問題となっている「脱法ハーブ」関連の依頼も多く、実情について説明し、専門病院としての臨床経験を踏まえた啓発活動を行った。

## エ がんセンター

手術実施体制の充実の取組（小項目11）

平成24年度は、長時間、難易度の高い手術が増加する中で、医師、看護師ほか手術室のスタッフによる手術の合間の時間の短縮、手術後の使用材料記録時間の短縮など、手術室の効率的運用を引き続き行った結果、目標を超える手術を実施した。

[ 手術件数の実績 ]

平成23年度	平成24年度
2,564件	2,738件

がん対策の推進 外来化学療法（小項目12）

・外来化学療法については、実患者数が平成23年度から増加しているが、治療が長時間に及ぶ患者が増加したこともあり、治療件数は平成23年度の11,785件から平成24年度は11,624件と、目標にわずかに及ばなかった。

・外来化学療法の質の向上のため、リストバンドによる患者認証システムを導入し、患者誤認防止に努めた。

[ 外来化学療法件数の実績 ]

区分	平成23年度	平成24年度
件数	11,785件	11,624件
実患者数	1,403人	2,058人

・薬剤指導件数は、患者が十分に理解し、安心して治療が受けられるよう負担の軽減、不安の解消を図るよう、外来治療室において薬剤師による指導の充実を図り、平成23年度の1,586件から平成24年度は1,782件と196件増加した。

[ 外来薬剤指導件数の実績 ]

平成23年度	平成24年度
1,586件	1,782件

がん対策の推進 放射線治療（小項目13）

・リニアックが順調に稼動したことにより、平成24年度の放射線治療件数の実績は、目標の19,000件を超える19,041件となった。照射方法別では、通常照射が目標を大幅に超える実績となった。

[放射線治療件数の実績]

平成23年度	平成24年度
10,243件	19,041件

[照射方法別治療実患者数の実績値]

照射方法	平成24年度
通常照射	769人 30回
IMRT(強度変調)	15人 37回
定位照射	13人 4回
全身照射	20人 1回

照射回数については標準的照射回数を示しています。

- ・重粒子線治療施設については、平成27年12月の治療開始に向けて、平成24年12月に建設工事に着工するとともに、装置の製造を引き続き行った。

【重粒子線治療施設概要】

建築面積	3,009.12㎡
延床面積	6,999.47㎡
階数	地上2階、地下1階建
構造	鉄筋コンクリート造
治療室数	4治療室 6治療ポート

- ・先行して重粒子線治療を行う施設である放射線医学総合研究所に、平成24年10月から平成25年2月までの期間、診療放射線技師を研修派遣し、人材育成に取り組んだ。
- ・重粒子線治療について広く知ってもらうため、平成25年1月に県民を対象とした公開講座を開催した。

都道府県がん診療連携拠点病院の取組（小項目14）

- ・がん診療に関する専門医を育成することを目的としたがん専門医臨床研修（後期臨床研修）制度により、平成24年度には新たに5名を採用し、専攻する診療科を中心として研修を実施した。
  - ・都道府県がん診療連携拠点病院として、がん治療の均てん化を進めるため、がん臨床講座や緩和ケア研修など、県内の医療従事者を対象とした研修等を開催した。
- また、地域がん診療連携拠点病院による研修の連携や、地域の医療機関も参加できる合同カンファレンスを実施した。

[がん専門研修の実績]

区分	平成23年度		平成24年度	
	回数	参加人数	回数	参加人数
がん臨床講座	31回	626人	31回	560人
	(毎週水曜日 18:30～19:30)			
緩和ケア研修	1コース	67人	1コース	42人
	(2日で1コース H25年2月23日、24日)			

## オ 循環器呼吸器病センター

循環器疾患治療体制の充実（小項目15）

- ・P C I及びカテーテルアブレーションについては、スタッフの技術の向上と設備の充実により、着実な実績をあげた。また、平成24年度は、病院として初めて肺動脈拡張術（B P A）を施行したほか、心臓リハビリテーションを積極的に取り入れるなど、循環器医療の推進に努めた。

・心臓手術については、目標件数を若干下回ったものの、難易度の高い症例に対して良好な結果を収めた。また、心臓手術の分野における低侵襲治療への流れを受けて、小切開による手術など新しい治療にも取り組むと同時に、手術に関する新しい工夫等を論文執筆等により国内外に情報発信した。

[ P C I 症例数の実績 ]

平成23年度	平成24年度
265件	281件

[ 心臓手術の実績 ]

平成23年度	平成24年度
83件	78件

[ カテテルアブレーション件数の実績 ]

平成23年度	平成24年度
87件	93件

肺がん治療の強化（小項目16）

- ・胸腔鏡下手術については、呼吸器外科手術の大半に導入し、目標を4件上回る304件の実績となった。
- ・化学療法については、患者が社会生活を維持しながら治療できるよう外来での通院治療への対応を進め、実績としては目標値を下回ったものの、高い水準で稼動した。
- ・放射線治療件数（治療計画作成件数）については、新しいリニアックが平成24年8月から稼動し、前年度比26件増の77件とほぼ目標を達成した。
- ・間質性肺炎については、抗線維化薬を積極的に導入するなど診断・治療の豊富な経験を生かし、全国から患者を受け入れており、新規外来患者数は218件と目標を上回った。

[ 胸腔鏡下手術の実績 ]

平成23年度	平成24年度
278件	304件

[ 化学療法件数の実績 ]

平成23年度	平成24年度
1,189件	1,110件

[ 放射線治療件数の実績 ]

平成23年度	平成24年度
51件	77件

[ 間質性肺炎の新規外来患者数の実績 ]

平成23年度	平成24年度
176件	218件

結核医療の取組（小項目17）

- ・結核入院患者全員に院内DOTSを実施するとともに、退院患者についても、毎月地域の保健福祉センター等と定期的な会議を開くなど、地域ぐるみでの支援を行い、再発率の低下や多剤耐性結核の発生防止に努めた。
- ・また、患者が病気を理解し、服薬の必要性を認識するよう勉強会を開催したり、隔離された入院生活からのストレスを緩和するため、コンサートを開くなどの取組みを行った。

[結核病棟延入院患者数の推移]（下段は1日当たり）

平成23年度	平成24年度
13,478人	12,715人
(36.8人)	(34.8人)

[多剤耐性結核患者の推移]

平成23年度	平成24年度
2人	0人

## カ 医療機能を評価する指標の設定（小項目18）

平成24年度に取り組んだ「病院機構の共通指標（8指標）」と、各病院の持つ専門性・地域的な特徴などを考慮して取り組む「各病院の専門性・特性に応じた指標（18指標）」の実績の測定結果は、次のとおりである。

### 【病院機構の共通指標 8指標】

#### 1 患者満足度の把握（患者満足度調査）

[平成24年度満足度調査結果]

病院名	入院				外来			
	満足評価	回答総数	満足度	母数	満足評価	回答総数	満足度	母数
足柄上病院	93人	128人	72.7%	200	217人	323人	67.2%	390
こども医療センター	135人	177人	76.3%	313	723人	1,111人	65.1%	2,000
芹香病院	69人	111人	62.2%	127	171人	345人	49.6%	345
せりがや病院	33人	43人	76.7%	52	98人	105人	93.3%	112
がんセンター	284人	311人	91.3%	378	574人	704人	81.5%	843
循環器呼吸器病センター	163人	185人	88.1%	400	342人	397人	86.1%	600

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

#### 2 地域連携室等の相談件数

[相談件数実績（地域医療連携室等への診療相談）]

病院名	平成23年度	平成24年度
足柄上病院	11,264件	11,439件
こども医療センター	21,933件	27,137件
芹香病院	4,679件	4,817件
せりがや病院	391件	498件
がんセンター	9,354件	8,352件
循環器呼吸器病センター	11,416件	14,497件
計	59,037件	66,740件



### 3 クリティカルパスの設定数

[クリティカルパスの件数実績]

(件)

病院名	平成23年度	平成24年度			
		新規	改定(見直し)	廃止	件数
足柄上病院	70	2	15	1	71
こども医療センター	29	72	17	12	89
芹香病院	3	0	0	0	3
せりがや病院	3	1	2	0	4
がんセンター	32	5	0	0	37
循環器呼吸器病センター	20	1	8	0	21
計	157	81	42	13	225

### 4 退院サマリーの2週間以内完成率

[退院サマリーの2週間以内完成率(平成24年度実績)]

平成24年度目標値 80.0%

	分子	分母	測定値
	担当医が退院後2週間以内にサマリーを完成した数	退院患者数	2週間以内完成率
足柄上病院	5,178件	6,211人	83.4%
こども医療センター	5,323件	7,297人	72.9%
芹香病院	609件	612人	99.5%
せりがや病院	310件	381人	81.4%
がんセンター	7,297件	8,449人	86.4%
循環器呼吸器病センター	3,984件	4,334人	91.9%

### 5 ヒヤリ・ハット事例及び医療事故の発生・報告状況

医療安全に関する指標(ヒヤリ・ハット事例、医療事故) 平成24年度実績

病院名	ヒヤリ・ハット事例					医療事故				総計
	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	小計	レベル3b	レベル4	レベル5	小計	
足柄上病院	315件	1,312件	214件	37件	1,878件	2件	0件	0件	2件	1,880件
こども医療センター	278件	1,690件	123件	60件	2,151件	3件	0件	0件	3件	2,154件
芹香病院	97件	429件	61件	13件	600件	2件	0件	0件	2件	602件
せりがや病院	29件	102件	19件	2件	152件	0件	0件	0件	0件	152件
がんセンター	272件	1,546件	86件	17件	1,921件	2件	0件	0件	2件	1,923件
循環器呼吸器病センター	137件	820件	257件	30件	1,244件	3件	0件	0件	3件	1,247件
総計	1,128件	5,899件	760件	159件	7,946件	12件	0件	0件	12件	7,958件

## 6 褥瘡患者発生率

[褥瘡患者発生率（平成24年度実績）]

病院名	分子	分母	測定値
	新規褥瘡発生患者数（新規褥瘡発生件数）	入院患者数（延べ入院患者数）	褥瘡発生率
足柄上病院	61件	6,384人	0.96%
こども医療センター	122件	126,949人	0.10%
芹香病院	8件	2,887人	0.28%
せりがや病院	0件	426人	0.00%
がんセンター	114件	11,905人	0.96%
循環器呼吸器病センター	37件	4,322人	0.86%

こども医療センターのみ、分子は新規褥瘡発生件数、分母は延べ入院患者数

## 7 新卒看護師離職率

[新卒看護師離職率の実績] (人)

平成24年度目標値：9.5%未満

区分	平成23年度	平成24年度
病院機構の新卒看護師採用人数	122人	127人
病院機構の新卒看護師退職人数	14人	7人
病院機構の新卒看護師離職率	11.5%	5.5%
神奈川県の新卒看護師平均離職率	8.8%	-
全国の新卒看護師平均離職率	7.5%	-

## 8 専門・認定看護師数

[専門看護師等の有資格者数実績]		(人)	
区分	平成23年度	平成24年度	
専門看護師	15	21	
小児看護	5	6	
がん看護	7	11	
家族看護	2	2	
慢性疾患看護	1	1	
精神看護	0	1	
認定看護管理者	3	5	
認定看護師	51	52	
皮膚・排泄ケア	6	6	
集中ケア	8	8	
がん性疼痛看護	16	15	
がん化学療法	3	4	
乳がん看護	1	1	
緩和ケア	6	4	
感染管理	7	7	
糖尿病看護	0	2	
小児救急看護	2	2	
新生児集中ケア	2	2	
救急看護	0	1	
精神科認定看護師	5	5	
計	74	83	

## 9 糖尿病患者の血糖コントロールHbA1c < 6.9

[足柄上病院]

実績値 実績値 55.7 % (目標値 50%)

(分子) HbA1c < 6.9の患者数 502人

(分母) インスリン又は経口血糖降下薬を処方されている患者数 902人

- 10 心筋梗塞の治療開始時間(Doorto Balloon Time)  
[足柄上病院]  
実績値 73.3% (目標値 55%)  
(分子) 来院から初回冠動脈拡張術までの時間が90分以内の患者数 11人  
(分母) 緊急冠動脈形成術施行患者数 15人
- 11 地域がん登録の登録率  
[足柄上病院]  
実績値 95.2 % (目標値 80%)  
(分子) 地域がん登録をしたがん患者数 377人  
(分母) 全がん治療患者数 396人
- 12 1歳未満乳児外科施設基準対象手術件数  
[こども医療センター]  
実績値 77件 (目標値 105件)
- 13 ハイリスク妊娠取扱率  
[こども医療センター]  
実績値 38.8% (目標値 29%)  
(分子) ハイリスク妊娠管理加算又はハイリスク分娩管理加算の算定対象患者数205人  
(分母) 全分娩件数 529件
- 14 患者・家族の意見を反映させた看護計画実施率  
[こども医療センター]  
実績値 85.2% (目標値 70%)  
(分子) 患者・家族の意見を反映させた看護計画の実施患者数 3,553人  
(分母) クリティカルパス適用及び一日入院患者を除いた入院実患者数 4,170件
- 15 在宅療養指導実施件数  
[こども医療センター]  
実績値 504件 (目標値 1,200件)
- 16 医療観察法の通院医療延患者数  
[精神医療センター 芹香病院]  
実績値 1,054人 (目標値 1,056人)
- 17 全県における救急病棟の措置入院の受入率  
[精神医療センター 芹香病院]  
実績値 19.9% (目標値 20%)  
(分子) 1年間の措置入院延件数 141件  
(分母) 1年間の全県の延措置入院件数 707件

- 18 外来患者への訪問看護延件数  
[精神医療センター 芹香病院]  
実績値 2,928件 (目標値 2,500件)
- 19 初診患者の紹介率  
[精神医療センター せりがや病院]  
実績値 38.3% (目標値 40%)  
(分子) 1年間の紹介患者延数 285人  
(分母) 1年間の初診患者延数 744人
- 20 主たる手術の包括算定の対象入院期間 以内の割合  
[がんセンター]  
肺の悪性腫瘍  
実績値 96.7% (目標値 90%以上)  
(分子) 包括算定の対象入院期間 (13日)以内の手術数 260件  
(分母) 手術数 269件  
胃の悪性腫瘍  
実績値 93.4% (目標値 90%以上)  
(分子) 包括算定の対象入院期間 (20日)以内の手術数 114件  
(分母) 手術数 122件  
乳房の悪性腫瘍  
実績値 83.6% (目標値 70%以上)  
(分子) 包括算定の対象入院期間 (8日)以内の手術数 179件  
(分母) 手術数 214件
- 21 歯科口腔ケアの取組件数  
[がんセンター]  
実績値 198例 (目標値 200例)
- 22 英文原著論文数及びそのインパクトファクター(I F)  
[がんセンター]  
実績値 日本病理学会の英文誌 1,488点  
(Patholgy Intemational)  
臨床研究所の平均 2.523 (98.388 ÷ 39 = 2.523)  
(分子) ファクター数 98.388点  
(分母) 論文数 39件
- 23 専門看護外来患者数  
[がんセンター]  
実績値 1,458人 (目標値 2,000人)

- 24 急性心筋梗塞患者における病院到着からP C Iによる再開通までの時間  
 [循環器呼吸器病センター]  
 実績値 87.9% (目標値 80%以上)  
 (分子) 来院から初回冠動脈拡張術までの時間が90分以内の患者数 29人  
 (分母) 緊急冠動脈形成術施行患者数 33人
- 25 心臓MRI検査件数  
 [循環器呼吸器病センター]  
 実績値 429件 (目標値 450件)
- 26 リハビリテーション実施件数  
 [循環器呼吸器病センター]  
 実績値 心臓リハビリテーション 2,302件 (目標値 2,200件)  
 呼吸器リハビリテーション 4,036件 (目標値 2,850件)

## (2) 医療機器・施設整備の推進

### ア 医療機器整備の推進 (小項目19)

医療技術の進展や、経年劣化への対応を目的として、高額医療機器11品目を含めた医療機器の整備・更新を進めた。

#### 【高額医療機器】

[足柄上病院]	一般撮影用画像読み取り処理装置
[こども医療センター]	人工心肺装置、診断用マルチスライスCT搭載ガンマカメラ、移動式OPE用顕微鏡、全自動生化学免疫測定システム、デジタルX線TVシステム
[がんセンター]	集中治療部門生体情報管理システム、密封小線源治療計画システム、シンチレーションカメラシステム
[循環器呼吸器病センター]	集中治療部門生体情報管理システム、手術器具滅菌装置

#### 【通常医療機器】

[足柄上病院]	超音波診断装置 等
[こども医療センター]	超音波診断装置 等
[芹香病院]	生化学自動分析装置 等
[せりがや病院]	2クランクギャッチベッド 等
[がんセンター]	蛍光顕微鏡、コルポスコープ 等
[循環器呼吸器病センター]	内視鏡システム 等

### イ 施設整備の推進

#### (ア) がんセンター総合整備の推進

がんセンター総合整備の推進 (小項目20)

・平成25年11月の開院に向けて、平成23年度に着手した工事を計画通り進めた。また、PFI事業者であるSPCとの運営に関する協議や医療機器・備品の調達準備等についても、定期的にワーキンググループによる検討を行うとともに、適切な進捗管理により効率良く進めた。

・平成27年12月に予定している重粒子線の治療開始に向け、施設の実施設計を完了し、

平成24年12月に建設工事に着手した。また、装置製造を引き続き行った。

【新がんセンター施設概要】

施設概要	新病院	現病院
延床面積	51,379.36㎡	33,535.06㎡
敷地面積	37,425.56㎡	18,276.30㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造 免震構造 太陽光発電設備を設置	鉄筋コンクリート造
病床数	415床	415床
手術室	12室	6室
I C U	6床	6床
H C U	18床	6床
外来診療室	56室	32室
外来化学療法室	50床	24床
採血ブース	8室	5室
内視鏡室	6室	4室
無菌病棟	30床	20床
緩和ケア病棟	20床	14床
病室	4人部屋	6人部屋
放射線治療	リニアック 4台	リニアック 2台 マイクロトン 1台

【重粒子線治療施設概要】

建築面積	3,009.12㎡
延床面積	6,999.47㎡
階数	地上2階、地下1階建
建物構造	鉄筋コンクリート造
治療室数	4治療室 6治療ポート

・円滑な重粒子線治療施設運営を行うため、診療放射線技師を、先行して重粒子線治療を行っている施設へ派遣するなどにより人材育成を図った。

(1) 精神医療センター総合整備の推進

精神医療センター総合整備の推進（小項目21）

【医療観察法病棟】

・医療観察法に基づく指定入院医療機関としての機能整備を推進するため、入院治療を実施する専門病棟を整備し、平成24年11月に開棟した。

医療観察法専門病棟の開棟に伴い、既存の専門病棟2床は一般精神科病棟へ転用した。

【医療観察法病棟の概要】

病床数	33床
建築面積	1,768.15㎡
延床面積	2,998.75㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造 2階建

【新棟（新病院）】

・精神医療センター総合整備計画に基づき、施設の老朽化や新たな精神科医療への対応、さらには芹香病院とせりがや病院の統合による効率的な病院運営を図るため、平成26年度の開棟に向けて、平成24年10月から建設工事を実施した。

【新棟の概要】

病床数	8 病棟290床
建築面積	5,570.52㎡
延床面積	18,462.53㎡
建物構造	鉄筋コンクリート造 5階建 免震構造、太陽光発電設備を設置

(ウ) その他の施設整備の推進

こども医療センターの医療従事者宿舎の整備（小項目22）

- ・こども医療センターにおいて、医療スタッフの確保及び災害時の医療機能維持を目的に、平成23年度に着工した医師宿舎の改修及び医療従事者宿舎の建設工事は、それぞれ平成24年6月と9月に完成した。
- ・こども医療センターにおいて、災害発生時に手術室や新生児集中治療室機能を確保、維持するための周産期棟自家発電装置の更新工事が平成24年7月に完成した。

(3) 地域医療連携の強化

地域医療連携の強化（小項目23）

- ・それぞれの地域や病院の特性を踏まえた、地域医療機関等との連携の強化に取り組み、紹介・逆紹介の件数の増加に努めた。
- ・神奈川県立病院地域医療連携連絡会議を4回開催し、病院間における連携の検討や情報交換等を行った。

[紹介件数実績]

病院名	平成23年度	平成24年度
足柄上病院	4,580件	4,755件
こども医療センター	7,642件	7,860件
芹香病院	297件	322件
せりがや病院	242件	285件
がんセンター	5,139件	5,478件
循環器呼吸器病センター	3,536件	3,378件
計	21,436件	22,078件

[逆紹介件数実績]

病院名	平成23年度	平成24年度
足柄上病院	3,703件	3,599件
こども医療センター	4,325件	4,880件
芹香病院	481件	351件
せりがや病院	220件	244件
がんセンター	1,518件	1,508件
循環器呼吸器病センター	3,730件	4,244件
計	13,977件	14,826件

[足柄上病院]

- ・足柄上病院は急性期治療を、地域医療機関はリハビリテーション等の回復期治療を担う連携を進めるとともに、平成24年度は鶴巻温泉病院など3医療機関と「脳卒中地域連携パス」を16件運用した。
- ・足柄上医師会と紹介患者の症例検討会（足柄上臨床研究会）の定期開催、地域医療機関、福祉施設等へ訪問による意見交換を実施し、連携・協力を努めた。
- ・高度医療機器の共同利用    C T 288件    M R I 67件    計355件

[こども医療センター]

- ・こども医療センターに対し複数回の紹介実績のある県内の医療機関を対象に、地域医

療連携登録を働きかけたところ、平成23年度の207機関から164機関増の371機関となった。

- ・地域医療支援事業運営委員会を年2回開催したほか、こども医療センターに紹介実績のある医療機関に対しアンケートを実施し、地域医療機関のニーズの把握に努めた。

- ・平成24年10月から退院調整専従の看護師を配置し、多職種連携のもと退院支援カンファレンスを推進した結果、退院支援計画策定件数が月平均5.8件から月平均25件へ急増した。また、地域医療機関との退院前共同カンファレンスも積極的に推進し、退院調整加算の算定件数が一月あたり15.3件から26.8件へ急増した。

- ・小児の訪問看護の経験の少ない訪問看護ステーションの不安軽減のため、訪問看護ステーションの看護師の初回訪問時に同行する退院後訪問を1月から開始し、8回実施した。また、訪問看護ステーション向け医療ケア実技研修会を5回実施した等の取組みを通じ、小児の受入が可能な県内の訪問看護ステーションが平成23年度の107機関から3機関増の110機関となった。

#### [ 芹香病院 ]

- ・精神科救急医療システムの構成団体（県、横浜市、川崎市、相模原市）と連携し、精神科救急の受入を推進した。

- ・かながわ司法精神医療福祉ネットワーク会議（年4回）を主宰し、県内の医療観察法の指定医療機関、保護観察所、社会福祉施設等との連携を図った。

- ・退院促進や地域生活支援のため、地域の保健所や社会福祉施設等とケア会議を実施した。

#### [ せりがや病院 ]

- ・保健所等の行政機関との連携協議を実施した。

- ・薬物乱用防止教室など学生を対象とした普及啓発を行った。

#### [ がんセンター ]

- ・5大がん共通地域連携パスの取組みについて、内容を現況に合わせた見直しを開始した。

- ・地域連携パスを活用する施設に対し、診療報酬算定に必要な届出等の指導を実施し、算定方法などの周知方法を検討した。

#### [ 循環器呼吸器病センター ]

- ・循環器・呼吸器の専門病院として有する知見・資源・経験を活用し、地域の医療従事者との相互研さんや情報の共有化を図るとともに、地域医療水準の向上に貢献した。

#### ( 内容 )

地域医療支援事業運営委員会（年2回）

金沢区内結核等感染症に関する医療機関等連絡会

症例検討会

レントゲン撮影の出張訪問の実施

高度医療機器の共同利用（依頼検査の実施）

C T 489件、M R I 257件、R I 6件 計752件

## (4) 臨床研究の推進

### ア 臨床研究

#### (ア) がんセンター

がんセンターにおける臨床研究の推進（小項目24）

- ・臨床研究所研究員とがんセンター臨床各科の医師あるいは外部機関の研究員等とが



んの早期発見、治療等についての共同研究を行い、その研究成果を業績集の発行や成果報告会により報告を行うとともに、英文原著論文や学会発表を行った。

[平成24年度論文実績]

170件（邦文58件、英文112件）うち臨床研究所44件(邦文5件、英文39件)

[平成24年度共同研究実績]（臨床研究所）

31件（がんセンター内10件、院外21件）

[平成24年度学会発表]

国内28件、講演6件、国外8件

・神奈川県のがんの罹患数及び罹患率を調査するため、神奈川県悪性新生物登録事業として県内医療機関の理解と協力を得て地域がん登録を進めた。

[神奈川県がん登録事業の登録件数実績]

平成23年度	平成24年度
70,893件	70,161件

・産学公の連携により、がんの臨床研究を促進し、適切ながん情報を患者に提供する神奈川がん臨床研究・情報機構において貴重な研究試料としての腫瘍組織の収集を行った。

[腫瘍組織収集の実績]

平成23年度	平成24年度
648件	650件

・厚生労働省認定の高度医療技術として「術後補助化学療法に関する臨床試験」に参加するなど、臨床試験に積極的に取り組んだ。

## (1) その他の病院における臨床研究の推進

その他の病院における臨床研究の推進（小項目25）

各病院の特性を生かし、診断技法・治療法の開発及び臨床応用のための研究に取り組んだ。

[足柄上病院]

・胆嚢の内ヘルニア症例に関する論文「Gallbladder herniation into the lesser sac through the foramen of Winslow:report of a case」（外科学会誌）などの論文を学会誌に掲載した。

また、国際外傷学会において「EFFICACY OF THE EMERGENCY COMA SCALE FOR SEVERE HEAD INJURY」（重症頭部外傷の緊急評価の効果）の発表等を行った。

[こども医療センター]

・4月からゲノム解析研究部門に2名、病態機能解析研究部門に1名の研究員を配置し、国内最多のマイクロアレイ染色体検査を実施したほか、次世代シーケンサーを用いた遺伝子解析研究、再生医療研究など様々な研究を実施した。

・横浜市立大学との連携大学院協定に基づき、こども医療センターの医師5名が横浜市立大学大学院の客員教授として研究活動を行うなど、臨床研究の推進に取り組んだ。

・臨床研究を推進するにあたり、文部科学大臣から「科学研究費補助金取扱規程第2条第1項第4号に規定する研究機関」に指定された。

[精神医療センター]

・ニューロモデュレーション研究、依存症研究、東洋医学研究等の臨床研究の充実に努めた。

・「鍼灸介入前後に自律神経機能と不安抑うつ状態への影響に関する研究」等、論文や

学会発表を行った。

[ 循環器呼吸器病センター ]

・間質性肺炎について、国内外の臨床試験に参加したほか、肺がん分野では厚生労働省認定の高度医療技術として「術後補助化学療法に関する臨床試験」に参画するなど、各診療科において臨床研究、臨床試験に積極的に取り組んだ。

## イ 治験

### (ア) こども医療センター

こども医療センターにおける治験の推進（小項目26）

・平成24年度の治験受託件数は22件で、うち希少疾病用の治験受託件数は2件、国際共同治験は4件であった。なお、希少疾病用医薬品の治験は2件とも平成24年度中に終了し、上梓された。

・国内30施設が登録する小児治験ネットワークを通じ他の医療機関と連携した治験契約を2件締結した。また、小児治験ネットワーク登録施設間の情報共有、TV会議システムを利用した情報交換（独立行政法人国立成育医療センター他3機関）を行うこと等により、小児治験の質の向上と効率化に尽力した。

・治験管理システムの導入に伴い、治験契約ごとの進捗管理の効率化が図られた。

(参考)[治験受託件数及び症例数]

区 分	平成23年度	平成24年度
治験受託件数	17件	22件
うち希少疾病用医薬品の治験契約	2件	2件
うち国際共同治験	3件	4件
治験契約症例数	42人	52人

### (イ) その他の病院における治験の推進

その他の病院における治験の推進（小項目27）

・各病院の特性及び機能を生かした治験を推進し、治験受託件数の増加に努めた。  
・各病院において、基本理念であるヘルシンキ宣言に基づく倫理的原則及び医薬品の臨床試験の実施基準（GCP）等に基づき、治験担当医師、治験依頼者、院内各部門とも連携を図り、円滑で質の高い医薬品等の治験及び臨床研究を推進した。

[ 治験実施状況（平成24年度実績） ]

病院名	治験受託件数	受託研究件数
足柄上病院	12件	40件
こども医療センター	22件	62件
芹香病院	8件	0件
がんセンター	47件	58件
循環器呼吸器病センター	29件	39件
計	118件	199件

[ 治験実施状況（平成23年度実績） ]

病院名	治験受託件数	受託研究件数
足柄上病院	12件	42件
こども医療センター	17件	63件
芹香病院	8件	0件
がんセンター	43件	50件
循環器呼吸器病センター	30件	40件
計	110件	195件

[ 足柄上病院 ]

抗がん剤や肺高血圧症治療薬などの医薬品について治験や受託研究に取り組んだ。

[ 芹香病院 ]

統合失調症患者及びうつ患者を対象とした投与試験を実施した。

[ がんセンター ]

治験の領域別では乳がん10件、膵がん7件、肝細胞がん6件、肺がん6件など計47件を実施し、症例数では延べ299件の実績となった。また平成24年度からホームページに実施中の治験を掲載し、治験を要望する患者及び治験依頼者の医療機関選定に対して情報提供を行っている。

[ 循環器呼吸器病センター ]

循環器、呼吸器の専門病院として最先端の治療の提供や高い効果の治療法を開発するため、抗がん剤をはじめとして様々な医薬品の治験や医療機器の受託研究に取り組んだ。

## 2 安全で安心な医療の提供

### (1) 安全で安心な医療を支える医療体制の整備（小項目28）

#### 褥瘡防止に関する取組の推進

- ・全病院に褥瘡患者の治療並びに褥瘡防止対策の実施及びその評価を行う体制があり、足柄上病院、こども医療センター及びがんセンターにおいては、診療報酬「褥瘡ハイリスク患者ケア加算」の施設基準を満たしている。
- ・各病院の褥瘡発生防止の取組は次のとおりである。

[ 足柄上病院 ]

- ・褥瘡リンクナース会議を毎月開催し、褥瘡リスクの保有、発生状況の分析等を行い、早期治癒に向けた検討を行うとともに、褥瘡対策会議を開催した。
- ・入院時から褥瘡患者発生防止のためのマットを使用するなどの取組を実施している。

[ こども医療センター ]

- ・専従の褥瘡管理者を配置し、褥瘡診療部会及び診療ケア部会を毎月1回開催した。
- ・褥瘡の重点対策を「牽引対策」「非侵襲的陽圧マスク対策」及び「弾性ストッキング対策」等として、医師、看護師その他医療従事者が連携し、褥瘡ケアの技術水準の向上に取り組んだ。また、褥瘡発生予防具の評価を行い、体圧分散マットレスを活用した褥瘡防止の取組を推進した。
- ・褥瘡管理者が他病院の褥瘡対策会議に出席し、褥瘡ケア指導を実施した。

[ 芹香病院 ]

他の病院の皮膚・排泄ケア認定看護師に褥瘡ケア・褥瘡対策会議のコンサルテーション・勉強会を依頼するとともにケア用品を導入し、褥瘡の治癒、改善に繋げた。

[ せりがや病院 ]

褥瘡対策部会、会議において褥瘡の発生状況の確認を行い、より効果的な褥瘡発生予防対策について検討し、実施した。

[ がんセンター ]

- ・褥瘡管理者を中心に褥瘡対策チームによる褥瘡の予防ケアに取り組み、全ての入院患者に褥瘡発生予防対策を講じた。
- ・7対1看護基準体制を整備した。

[ 循環器呼吸器病センター ]

褥瘡ラウンドを毎月実施し、患者に対するケアを確認したほか、医療安全及び感染防止対策の一環として開催した「安全フォーラム」の中で、褥瘡についての予防ケアの展

示を行うなど、職員の技術向上を図った。

[褥瘡患者発生率（平成24年度実績）]

病院名	分子	分母	測定値
	新規褥瘡発生患者数（新規褥瘡発生件数）	入院患者数（延べ入院患者数）	褥瘡発生率
足柄上病院	61件	6,384人	0.96%
こども医療センター	122件	126,949人	0.10%
芹香病院	8件	2,887人	0.28%
せりがや病院	0件	426人	0.00%
がんセンター	114件	11,905人	0.96%
循環器呼吸器病センター	37件	4,322人	0.86%

こども医療センターのみ、分子は新規褥瘡発生件数、分母は延べ入院患者数

### 7 対1 看護体制の取得に向けての取組

看護師確保対策の一つとして、病院のタイムリーな情報を全国的に広く提供し、採用活動へと繋げていくことを目的として平成24年12月からフェイスブックの運用を開始した。

## (2) 医療安全対策の推進

### 医療安全対策の推進（小項目29）

・ヒヤリ・ハット事例、医療事故の総数が前年比増加したが、患者に高度の後遺症が残る可能性が生じた事例（レベル4）や、患者が死亡する事例（レベル5）については、2年連続で発生は無かった。

（参考）ヒヤリ・ハット事例、医療事故レベル別の件数  
（全病院集計）

区分		平成23年度実績	平成24年度実績
ヒヤリ・ハット事例	0	1,150件	1,128件
	1	5,611件	5,899件
	2	810件	760件
	3a	100件	159件
医療事故	3b	22件	12件
	4	0件	0件
	5	0件	0件
合計		7,693件	7,958件

・医療安全対策ワーキンググループを5回開催（5月、7月、10月、1月、2月）し、各県立病院の医療事故等の再発防止策を共有し医療安全対策の標準化に取り組んだ。  
・患者と医療従事者の対話促進、関係構築を支援し、医療に関する苦情等に円滑に対応するため、メディエーション研修を実施した。

<日程> 10月4日、5日（2日間）

<受講者> 30人（医師3人、看護師9人、医療相談担当（福祉職等）9人、事務9人）

<研修の内容> 実際に病院現場で起きた事例等をロールプレイング形式で実践

・医療安全対策のより一層の強化を図るため、「医療安全会議」や「医療安全に関する研修」等発生防止のための取組を実施した。

病院名	医療安全会議	リスクマネージャー会議	医療安全に関する研修
	回数	回数	参加者数
足柄上病院	12回	12回	1,853人
こども医療センター	12回	6回	2,405人
芹香病院	12回	11回	702人
せりがや病院	11回	11回	181人
がんセンター	12回	12回	1,366人
循環器呼吸器病センター	16回	11回	863人
合計	75回	63回	7,370人

院内研修のみ

・各病院が行った医療安全対策に関する主な取組は次のとおりである。

[ 足柄上病院 ]

- ・注射薬を配合するにあたり、安全性をより高めるため、「注射薬配合変化注意一覧」を作成するとともに、処方箋に注射薬配合変化についての注意喚起コメントを記載した。
- ・外来の内視鏡検査において患者誤認防止対策を強化するため、患者にネームホルダーや、リストバンドを使用することを徹底した。

[ こども医療センター ]

- ・ファシリティドッグの導入に伴い、アレルギー問診表の内容を改正し、動物アレルギーについての項目を追加するとともに、アレルギー関連事故を防止するため、患者のアレルギー情報を電子カルテで共有することとし、取扱い方法等をマニュアルに定めた。
- ・薬剤等の誤投与を防止するため、注射薬と調乳に関してバーコードを用いた患者認証システムを使用することを定めた。

[ 芹香病院 ]

- ・与薬関連の事故を防止するため、与薬時に5R（患者氏名・薬剤名・投与量・投与日時・投与方法）の確認を行うことをマニュアルに定めた。
- ・事故防止啓発のため、職員から標語を募集し、ポスターを作成するなど院内に周知した。

[ せりがや病院 ]

- ・ロールプレイ形式による危険予知トレーニングの研修会を実施した。

[ がんセンター ]

- ・患者誤認防止対策を強化するため、外来化学療法治療室に患者誤認防止用のリストバンドを導入し、リストバンドのバーコードを用いた患者認証システムを使用することを定めた。

[ 循環器呼吸器病センター ]

- ・患者に投与する薬剤を与薬カートにセットする際に、作業中断による間違いを防止するため、作業中断カードの運用方法を定めるとともに、与薬セット間違いを防止するため、与薬セット方法を院内で統一し、マニュアルを定めた。

(3) 感染症対策の強化

感染症対策の強化（小項目30）

- ・県立病院における感染防止対策の推進を図るため、平成24年10月に県立病院の感染管理者を構成員とする神奈川県立病院感染防止対策会議を設置し、4回開催した。

同会議において、各病院の感染防止対策に係る課題を集約し、感染防止マニュアルを共有した。

また、各病院同士の相互に感染防止対策に関する評価を実施したほか、新型インフルエンザの発生状況等について、専用のホームページによる会議委員間のタイムリーな情

報交換を行うなど、県立病院間の連携を推進した。

- ・院内感染を防止するため、各病院において感染防止会議や研修会の開催、さらに感染対策マニュアル等の見直しを行った。

[院内感染防止会議の開催実績]

病院名	平成23年度	平成24年度
足柄上病院	12回	12回
こども医療センター	11回	12回
芹香病院	12回	12回
せりがや病院	12回	11回
がんセンター	12回	14回
循環器呼吸器病センター	12回	16回
計	71回	77回

[感染症防止院内研修の開催実績]

病院名	平成23年度	平成24年度
足柄上病院	10回	14回
こども医療センター	7回	7回
芹香病院	3回	3回
せりがや病院	3回	3回
がんセンター	19回	13回
循環器呼吸器病センター	15回	16回
計	57回	56回

- ・各病院が実施した院内感染防止対策の主な取組は、次のとおりである。
  - 小児感染症、医療関連感染（B S I・S S I等）を把握し、院内ラウンドや抗菌剤の適正使用などの対策を実施（こども医療センター・がんセンター・循環器呼吸器病センター）
  - 他の医療機関と連携した合同カンファレンスを実施し、手指衛生サーベイランスなどの取組の推進（足柄上病院・こども医療センター・がんセンター・循環器呼吸器病センター）
  - 県立病院間による相互評価ラウンドの実施による感染防止対策の取組の強化（足柄上病院・こども医療センター・がんセンター・循環器呼吸器病センター）
  - 新生児病棟のM R S A対策の一環として、ハンドケアの実施による手指衛生の強化（こども医療センター）

#### (4) 災害対策の推進

災害対策の推進（小項目31）

- ・災害発生時に病院機能を確保、維持するための医薬品・災害用医療資材等の備蓄をするとともに、自家用発電装置の更新等を行い、施設の点検及び防災訓練等を実施した。

防災訓練実施回数及び防災訓練参加者数の実績

区分	平成23年度	平成24年度
防災訓練実施回数	14回	14回
防災訓練参加者数	1,649人	1,537人

#### 【D M A Tの指定について】

- ・足柄上病院は、県西地域の災害医療拠点病院として、平成25年2月に「神奈川D M A T指定病院」の指定を受け、災害の急性期（災害発生から48時間以内）に活動できる機動性を持つD M A Tを設置し、より広域的な災害に迅速かつ的確な医療を提供する災害時医療体制の整備に取り組んだ。

#### 【自家用発電装置の更新について】

・こども医療センターにおいて、災害発生時に手術室や新生児集中治療室機能を確保、維持するための周産期棟自家用発電装置の更新(1000kVA 1500kVA)工事が7月に完成した。

#### 【防災訓練への取組について】

・各病院の地域における防災の役割等を踏まえ、想定外の災害発生に対応できる実効的な防災訓練を企画し実施した。

#### [足柄上病院]

・平成24年11月に職員を対象に足柄消防組合と連携して防災訓練を実施した。

#### [こども医療センター]

・こども医療センターにおいて、夜間想定防災訓練、転入職員対象防災訓練といった目的や対象を明確にした防災訓練を実施した。また、訓練内容も出火場所を秘匿とするなど、より実践的な訓練とした。

#### [精神医療センター]

・総合整備の工事に伴い、災害時の患者の避難経路、避難場所が限定されることなどから、安全かつ迅速に避難できるように防災マニュアルを改定した。

また、改定したマニュアルに沿って各病院で防災訓練を実施し、検証を行った。

#### [がんセンター]

・部分訓練、総合訓練及び夜間訓練の3回の防災訓練を行った。

特に、総合訓練では、院内へ現在の状況について随時、放送を行い、実践的な訓練放送及び情報提供の伝達訓練をすることにより、在院者に不要な不安を与えないよう工夫した。一部の患者も参加した避難訓練では、消火器訓練やトリアージによる実働訓練を行った。

#### [循環器呼吸器病センター]

・出火の際の消火活動、情報伝達、避難誘導等の総合的な防災訓練(第1回)のほか、夜間時の災害を想定した『状況付与型訓練』(第2回)を初めて実施し、実効性のある防災対策の確立を図った。

・災害医療コーディネーターによる被災病院の災害対策についての職員研修を実施し、自所属が大地震などの災害に巻き込まれた際の、患者と自分自身の安全確保や医療機能の維持等について理解を深めた。

#### 【総合整備の推進について】

#### [がんセンター]

・免震構造を採用した病院建設工事については、平成25年8月竣工へ向け計画通り進めた。手術室など患者の生命維持にかかわる医療機器を使用する部門については、無停電電源装置を介した電源供給とし、電源切替や電圧変動にも安全に対応した。また、重要度の高い諸室機能や防災設備には、停電時にも非常用発電及びガスコージェネレーションシステム(CGS)により電源供給を行う。

#### [精神医療センター]

・新棟整備にあたっては、より一層安全性を高めるため地震に強い免震構造を採用した工事を進めた。

#### 【災害時における協定について】

・災害発生時等に各病院への燃料供給が困難になった場合において、県と石油関係業界団体との協定に基づき通常の流通経路によらない臨時的、緊急的な燃料供給を受ける指定施設となった。

・病院が保有する車両を緊急通行車両等に指定することにより、県と運輸関係業界団体との協定にもとづき、災害発生時の医療救護活動においてタイヤのパンク修理、タイヤ点検等の要請を行えることとなった。

### (5) 情報セキュリティの強化

情報セキュリティの強化（小項目32）

- ・県立病院機構独自の業務システムのネットワーク整備にあたり、ウィルス対策ソフトの導入や、ネットワークへの接続は共通利用パソコンに制限するなどのセキュリティ対策を講じた。
- ・全所属で情報セキュリティ研修を実施した。また、新規採用職員・転入職員向け研修の受講科目として、日常業務における情報管理のポイントや注意事項を説明した。

実施日	対象	参加者数
4月10日	新採用職員・転入職員向け	283人
8月21日	循環器呼吸器病センター	70人
9月20日	本部事務局	25人
11月13日	がんセンター	57人
12月20日	足柄上病院	46人
2月4日	こども医療センター	191人
2月6日	精神医療センター	40人
2月18日	こども医療センター	198人
	計	910人

- ・地震、火災等の災害によるデータ損失を防止するため、人事給与システム、財務会計システム等のバックアップを自動的に行うとともに、遠隔地に保管した。
- ・こども医療センターにおいては、平成24年4月から医療情報管理室を設置し、個人情報流出を防ぐデバイス制御等の各医療情報システムのセキュリティ対策を一体的に運用管理する体制を整備した。

## 3 患者の視点に立った病院運営

### (1) 患者にとって分かりやすい医療の提供

クリティカルパスの適用状況（小項目33）

- ・各病院において、患者の負担軽減や計画的で分かりやすい医療を提供するため、クリティカルパス等を利用して患者へのインフォームドコンセントの実施に努めた。
- ・クリティカルパス検討会議を開催し、新規作成や見直しを行うことで、エビデンスに基づく医療の質を確保する取組を実施した。

[クリティカルパスの件数実績] (件)

病院名	平成23年度	平成24年度			
		新規	改定(見直し)	廃止	件数
足柄上病院	70	2	15	1	71
こども医療センター	29	72	17	12	89
芹香病院	3	0	0	0	3
せりがや病院	3	1	2	0	4
がんセンター	32	5	0	0	37
循環器呼吸器病センター	20	1	8	0	21
計	157	81	42	13	225

[足柄上病院]

- ・平成24年度はクリティカルパス検討会議を7回開催し、「人工関節置換術」など新規のクリティカルパス2件を作成した。



[ こども医療センター ]

・クリティカルパス検討会議を3回開催した。また、電子カルテシステム導入に伴い、運用しているすべてのクリティカルパスを電子化した。

[ 芹香病院 ]

・新規作成パスはないが、多職種と新規パス作成の検討を行うとともに、「抑うつパス」など3件のクリティカルパスを運用した。

[ せりがや病院 ]

・クリティカルパス検討会議を2回開催し、実施状況等の確認を行うとともに、「薬物依存症入院クリティカルパス」を新たに作成した。

[ がんセンター ]

・クリティカルパス検討会議を10回開催し、新規に「IP療法クリティカルパス」をはじめとして5件を作成した。  
 ・電子カルテシステム導入に伴い、37件の全てのクリティカルパスについて電子化した。

[ 循環器呼吸器病センター ]

・クリティカルパス検討会議を7回開催し、新たに「経食道心エコー」のクリティカルパスを作成した。

医療福祉相談等の実施（小項目34）

各病院の地域医療連携室等において経済的問題や家庭環境をはじめとした多様な相談を実施し、患者・家族が安心して医療を受けられるよう努めた。

[相談件数実績（地域医療連携室等への診療相談）]

病院名	平成23年度	平成24年度
足柄上病院	11,264件	11,439件
こども医療センター	21,933件	27,137件
芹香病院	4,679件	4,817件
せりがや病院	391件	498件
がんセンター	9,354件	8,352件
循環器呼吸器病センター	11,416件	14,497件
計	59,037件	66,740件

[がんセンターにおける相談件数（内訳）]

平成23年度実績	医療相談支援室	がん臨床研究・情報機構	計
相談延件数	7,291件	2,063件	9,354件
うち電話	3,597件	2,063件	5,660件
うちサテライト	395件		395件
平成24年度実績	医療相談支援室	がん臨床研究・情報機構	計
相談延件数	6,418件	1,934件	8,352件
うち電話	2,882件	1,934件	4,816件
うちサテライト	175件		175件

各病院における特徴的な取組は次のとおりである。

[ 足柄上病院 ]

地域医療連携室及び患者さん相談室において専門相談員が患者・家族との対面相談を行い、問題解決のための活動を実施した。

[ こども医療センター ]

・平成25年度から患者家族の相談支援に特化した医療福祉相談室と保健行政との連携に特化した母子保健推進室に再編整備するため、保健福祉相談室の機能見直しを行った。

- ・神奈川県から受託している小児救急電話相談(#8000)事業については、平成23年度の13,812件から277件増加の14,089件の相談に対応した。

[ 芹香病院 ]

医療相談室において、救急、ストレスケアをはじめとした患者からの相談に対応した。また、医療観察制度への対応については、医療観察法病棟の開棟に伴い、専任スタッフを配置するなど体制の充実、強化を図り、患者や家族に制度の説明を行い、相談に応じた。

[ せりがや病院 ]

心理・相談科において、依存症により生じた家族関係や就業・経済的問題など、社会的側面の問題をもつ患者・家族に対して相談に応じた。また、受診していない者の家族からの相談に着目して面接相談を行い、受診につなげた。

[ がんセンター ]

医療相談支援室及び神奈川がん臨床研究・情報機構情報センターにおいて、看護師又はソーシャルワーカーが、経済的問題及び家庭環境に係る医療福祉問題等多様で幅広い相談に応じた。

[ 循環器呼吸器病センター ]

地域連携室において、看護師、事務職及び福祉職により、医療相談をはじめとする多様な相談に応じた。

セカンドオピニオンの推進（小項目35）

- ・各病院において、セカンドオピニオンを推進するため、実施方法をホームページや院内掲示等により、その周知に努めた。
- ・各病院のセカンドオピニオンの実施件数は次のとおりである。

[セカンドオピニオン件数実績]

病院名	平成23年度	平成24年度
足柄上病院	2件	0件
こども医療センター	33件	63件
芹香病院	3件	12件
せりがや病院	1件	0件
がんセンター	668件	689件
循環器呼吸器病センター	40件	55件
計	747件	819件

患者満足度調査の実施（小項目36）

- ・各病院において、病院運営や患者サービスに関する現状把握と改善に活用するため、入院及び外来の患者（家族）を対象に患者満足度調査を実施した。
- ・調査では、「患者満足度調査の共通項目」として、全病院に「総合的な評価項目：全体としてこの病院に満足している」の設問を設定している。
- ・各病院の病院全体の満足度を測る調査項目の結果は、次のとおりである。

[平成24年度満足度調査結果]

病院名	入院				外来			
	満足評価	回答総数	満足度	母数	満足評価	回答総数	満足度	母数
足柄上病院	93人	128人	72.7%	200	217人	323人	67.2%	390
こども医療センター	135人	177人	76.3%	313	723人	1,111人	65.1%	2,000
芹香病院	69人	111人	62.2%	127	171人	345人	49.6%	345
せりがや病院	33人	43人	76.7%	52	98人	105人	93.3%	112
がんセンター	284人	311人	91.3%	378	574人	704人	81.5%	843
循環器呼吸器病センター	163人	185人	88.1%	400	342人	397人	86.1%	600

「回答総数」は調査票を配付し有効な回答として回収した数をいう。

「満足度」は「満足・やや満足」と回答した割合をいう。

[足柄上病院]

・外来用女子トイレの一部を和式から洋式に変更し、新たにベビーチェアを設置した。  
また、外来待合に認知症のスクリーニング用として、タッチパネルパソコンによる「もの忘れ相談プログラム」を新たに設置するなど、患者サービスの向上を図った。

[こども医療センター]

<患者満足度調査の意見を反映した取組>

・ジップロック、離乳食、赤ちゃん用米菓、赤ちゃん用麦茶など、院内コンビニエンスストアの取扱品目を充実した。また、外来患者用食堂で卵、牛乳、小麦、落花生など特定の食品を使用していないメニューを開始した。

・新生児病棟のコインロッカーを更新した。また、管理棟1階の待合場所に患者用ソファを追加設置した。

<患者サービスの向上の取組>

・入院患者の療養生活の改善を目的として、バイキング形式による食事会を実施した。

・駐車場の一部に人工芝を敷設し、患者・家族が歩きやすいよう整備した。

・肢体不自由児施設の床頭台を免震機能付きに更新し、患者アメニティの向上を図った。

[芹香病院]

・患者サービス向上のため、接遇の研修会を開催し、相手より目線を下げて対応する「膝をつく看護」の取り入れなど話しやすい雰囲気づくりを行うことでソフト面での満足度の向上を図った。

・満足度調査の結果について、職員全員が参加できる報告会を開催し、意識の共有を図った。

[せりがや病院]

・診療枠の拡大に伴う外来患者の増加により患者の待ち時間が延びることが予測されたため、外来に設置してある図書を増やすなど、少しでもくつろいで診察が待てるような環境づくりを心がけた。

[がんセンター]

・院内に置いてある投書箱の意見などより、外来駐車場のラインを引きなおし、11台分を敷地内に取り込んだことにより、駐車場入口付近の渋滞が緩和した。

・入院患者に提供する白米を吟味し、患者サービスの向上を図った。

[循環器呼吸器病センター]

・患者満足度向上会議を毎月開催し、患者満足度調査等で指摘された課題への対応に取り組んだ。また、平成24年度においては、来客用駐車場のラインの引き直しや外来診察室の出入扉の改修工事を実施し、患者・家族の利便性と安全性の向上を図った。

(2) 県民への病院・医療情報提供の充実（小項目37）

- ・各病院に蓄積された疾患・予防等に関する知識や県立病院が行う治療方法と実績等を公開講座を通じて、広く県民に分かりやすく情報発信し、普及・啓発を行った。
- ・神奈川県の記事を積極的に活用するとともに、広報誌の発行やホームページによる積極的な情報の発信に努めた。
- ・ホームページは、県民が必要とする医療情報を得やすくするため、より親しみやすく、利用しやすい内容・デザイン、また病院の魅力を積極的にアピールすることを基本コンセプトに、そのリニューアルを順次進めた。
- また、更新回数を増やし新着情報の提供に努めた。
- ・フェイスブックによる各病院の取組や活動の情報発信を平成24年12月より開始した。

[公開講座の実績]

病院名	平成23年度	平成24年度
足柄上病院	13回	19回
こども医療センター	8回	12回
芹香病院	7回	7回
せりがや病院	2回	1回
がんセンター	3回	4回
循環器呼吸器病センター	8回	9回
計	41回	52回

各病院が実施した主な取組は次のとおりである。

[足柄上病院]

- ・公開講座等の開催  
「最新のがん治療について」「ウイルス対策について」「糖尿病について」など
- ・広報誌の発行  
病院情報誌「かけはし」年3回 発行部数 2,000部  
タウンニュース掲載 医療レポート 年5回

[こども医療センター]

- ・公開講座等の開催  
「公開医療講座」「学術集談会」「小児救急医療キッズセミナー」「ハートキッズセミナー」「心肺蘇生講習会」など
- ・平成24年度は新たに神奈川県の補助を受け、県民救急理解推進事業として、県内小学校を訪問し、小児救急医療キッズセミナーを3回開催した。
- ・広報誌の発行  
地域連携室だより 年3回発行 3,000部
- ・平成24年10月から毎週土曜日、FM戸塚のラジオ番組「ラジオの絆」において様々な取組の紹介を行った。

[精神医療センター]

- ・公開講座等の開催  
「こころの健康を考えてみませんか」など
- ・広報誌の発行  
センターだより 年1回発行 700部

【芹香病院】

- リワークプログラム 1,000部
- ストレスケア病棟 1,000部

【せりがや病院】

- せりがや通信 年4回発行 300部

[ がんセンター ]

・公開講座等の開催

「肺がんの診断・治療の最前線」「がん治療中のあなたへ - がんと上手くつきあうために - 」「がんを知る」など

・広報誌の発行

がんセンターだより 年3回発行 2,250部

がんへの挑戦のしるべ(50周年記念誌)1,600部

[ 循環器呼吸器病センター ]

・公開講座等の開催

「公開医療講座」(2回)、「出張医療講座」(7回)など、医師による疾患・予防等に関する医療情報の提供に加え、管理栄養士、看護師、理学療法士など幅広い職種で講演を実施した。

(3) 患者の利便性の向上

待ち時間の短縮の取組(小項目38)

- ・各病院において、待ち時間の短縮や、患者の負担感を軽減するための取組を行った。
- ・各病院が行った待ち時間対策は次のとおりである。

[ 足柄上病院 ]

- ・外来待合室ディスプレイに生活習慣病予防などの医療情報を提供

[ こども医療センター ]

- ・会計が長引きそうな患者への説明

[ 芹香病院 ]

- ・診療待ち時間の表示

[ せりがや病院 ]

- ・患者の状況に応じた診療予約枠の設定

[ がんセンター ]

- ・採血待ち人数に応じた看護師の増員

[ 循環器呼吸器病センター ]

- ・外来待合室ディスプレイで配信する院内案内や医療・健康に関する情報の充実

[ 外来診療待ち時間実績 ]

病院名	平成23年度	平成24年度
足柄上病院	60分程度	60分程度
こども医療センター	30分程度	30分程度
芹香病院	30分程度	20分程度
せりがや病院	20分程度	20分程度
がんセンター	50分程度	40分程度
循環器呼吸器病センター	60分程度	60分程度

支払方法の多様化の取組(小項目39)

- ・クレジットカード、デビットカード、コンビニエンスストア収納の利用状況は以下のとおりとなっている。

【クレジットカード、デビットカード利用状況】

病院名	クレジットカード		デビットカード	
	平成23年度	平成24年度	平成23年度	平成24年度
足柄上病院	4,993件	5,194件	28件	39件
こども医療センター	8,947件	9,649件	107件	102件
芹香病院	1,724件	2,029件	96件	131件
せりがや病院	447件	472件	8件	1件
がんセンター	25,773件	29,763件	1,702件	1,189件
循環器呼吸器病センター	9,505件	10,572件	234件	221件
合計	51,389件	57,679件	2,175件	1,683件

【コンビニ収納利用状況】

病院名	コンビニ収納	
	平成23年度	平成24年度
足柄上病院	850件	801件
こども医療センター	187件	951件
芹香病院	834件	1,601件
せりがや病院	271件	531件
がんセンター	49件	22件
循環器呼吸器病センター	346件	352件
合計	2,537件	4,258件

・こども医療センターは、医事会計システムの更新に伴い、障害児入所施設に係る本人負担分について、窓口会計での支払いが可能となり、333件の利用があった。

また、未収金の発生防止及び患者負担の軽減のため、コンビニ収納を積極的に活用したことから、コンビニ収納が大幅に増加するなど、患者の利便性が向上した。

・がんセンターは、平成25年2月にクレジットカードでの支払いが可能で自動精算機を更新したことにより、クレジットカードの利用が増加するなど、患者の利便性が向上した。

(4) ボランティア・NPOとの協働（小項目40）

・ボランティア団体等の活動と連携・協力を得て、院内案内業務、患者介助等やコンサート等のレクリエーション活動等、患者の療養の支援を図る取組を推進した。

・診療等での適切かつ円滑な意思疎通を図るため、通訳ボランティアによる支援を受け、外国籍患者等の診療に対応した。 延べ利用件数 397件

[ 足柄上病院 ]

・ランパス、杉の子会、松田絵手紙の会、音楽ボランティア会、受付介助ボランティア会の各団体との連携・協力による各種活動や療養支援が行われた。

[ こども医療センター ]

・患者のQOLの向上や通院に対する恐怖感の軽減のため、26団体のボランティア団体(統括組織としてオレンジクラブがあり、構成員は324人)の協力により、各種活動(演奏会、遊び相手、生け花、園芸、装飾品の作成・展示等)や療養支援(介添え、院内誘導等)が行われた。

・入院患者の家族滞在施設(リラのいえ・利用可能室8室)について、利用希望者等からの利用相談や紹介等を通じて、長期入院患者の家族に対する支援を行った。

利用者数：409家族、利用者数：4,643人 延べ宿泊数：2,246日

・NPO法人スマイルオブキッズが運営する入院患者の家族滞在施設(リラのいえ)を支援していくため、かながわ県立病院小児医療基金から500万円をNPO法人スマイルオブキッズへ交付した。

・治療を続ける患者のストレスや不安を解消し、治療への勇気を持ってもらうため、平成24年7月にNPO法人シャイン・オン・キッズから全国で2例目となる病院に常駐するファシリテッドッグ(セラピードッグ)の派遣を受け入れた。

延べ対応患者数 2,179件

[ 芹香病院 ]

・琴グループさくら、老寿会をはじめとしたボランティアの協力を得て、患者の社会性を養うことなどを目的としたデイケアプログラムを4回実施した。

[ せりがや病院 ]

・依存症の患者や家族で構成する自助グループ(断酒会・AA)等の協力を得て、入院患者に対し、治療プログラムを実施した。

[ がんセンター ]

・ランパス(音楽、ミニコンサートなど)、スヴェンソン(理容ボランティア)らの協力を得て、院内案内業務や患者のレクリエーション活動、療養の支援等を実施した。

[ 循環器呼吸器病センター ]

・ランパス、MOA山月の協力を得て、院内の案内や外来患者の介助、コンサートや図書の出し出しなどの療養生活の支援を行った。

[ボランティア団体数]

病院名	平成23年度	平成24年度
足柄上病院	5	5
こども医療センター	25	26
芹香病院	2	2
せりがや病院	6	6
がんセンター	2	2
循環器呼吸器病センター	2	2
計	42	43

## 4 医療人材の確保・育成

### (1) 医師の確保と育成

医師の確保と育成の取組(小項目41)

・平成25年3月31日時点で、後期臨床研修医を除く医師の必要数314人のところ、現員数が294人で、充足率は93.6%である。

・医師確保については、連携協力のある大学医学部からの医局ローテーションを基礎としつつ、それ以外の手法(公募や人的ネットワークの活用)による採用とあわせ、平成24年度は70人(前年度比±0人)採用した。

・後期臨床研修医については、足柄上病院2人(前年度比±0人)、こども医療センター42人(同1人減)、精神医療センター1人(同1人増)、がんセンター31人(同3人増)、循環器呼吸器病センター7人(同2人増)と、前年度比5人増の合計83人を受け入れた。

・こども医療センターにおいては、横浜市立大学との連携大学院協定に基づき、こども医療センターの医師5名が横浜市立大学大学院の客員教授として講義を行ったほか、横浜市立大学大学院生1名を研修医として受入れ、また、平成25年度からこども医療センターの医師3名が大学院の授業を受講することが決定した。

## (2) 看護師の確保と育成

看護師の確保と育成の取組（小項目42）

- ・全病院を対象とする採用試験を7回実施した。また、病院それぞれが試験を実施し、採用時にはその病院に配属される配属確定型試験を5回実施し、計12回の採用試験により、看護師は平成25年4月1日現在で1,506人となった。
- ・看護師確保対策の一つとして、病院のタイムリーな情報を全国的に広く提供し、採用活動へと繋げていくことを目的として平成24年12月からフェイスブックの運用を開始した。
- ・修学資金の借受生は28人であり、平成24年度の卒業生7人が希望する県立病院機構の病院に就職した。

卒業年	平成24年度	平成25年度	平成26年度	合計	(人)
足柄上病院	0	6	2	8	
こども医療センター	4	2	0	6	
精神医療センター	0	0	0	0	
がんセンター	2	3	2	7	
循環器呼吸器病センター	1	4	0	5	
未定	0	1	1	2	
合計	7	16	5	28	

- ・新人看護師にはプリセプターシップをはじめとするきめ細かな1年目研修を実施するとともに、経験年数に従って5段階のステップで能力開発を行うキャリア形成体系（クリニカルラダー）に基づき、院内外において研修を実施した。

コース種類	専門コース	専門コース		管理コース	管理コース	計	(参考)平成23年度
	医療安全	ベーシック	アドバンス	キャリア形成	リーダーシップ		
参加者数	17	15	16	14	10	72	67

- ・新卒看護師の離職率は、平成23年度が11.5%に対して平成24年度は5.5%となり、目標値の9.5%未満を達成した。

区分	平成23年度	平成24年度	(人)
病院機構の新卒看護師採用人数	122	112	
病院機構の新卒看護師退職人数	14	7	
病院機構の新卒看護師離職率	11.5%	5.5%	
神奈川県の新卒看護師平均離職率	8.8%	-	
全国の新卒看護師平均離職率	7.5%	-	

- ・平成24年度には、新たに専門看護師6人、認定看護師3人が認定を受け、県立病院機構全体で専門看護師等の有資格者は、合計83人（前年度比9人増）となり、専門能力が発揮できるよう配置を行った。



[専門看護師等の有資格者数実績]		(人)	
区分	平成23年度	平成24年度	
専門看護師	15	21	
小児看護	5	6	
がん看護	7	11	
家族看護	2	2	
慢性疾患看護	1	1	
精神看護	0	1	
認定看護管理者	3	5	
認定看護師	51	52	
皮膚・排泄ケア	6	6	
集中ケア	8	8	
がん性疼痛看護	16	15	
がん化学療法	3	4	
乳がん看護	1	1	
緩和ケア	6	4	
感染管理	7	7	
糖尿病看護	0	2	
小児救急看護	2	2	
新生児集中ケア	2	2	
救急看護	0	1	
精神科認定看護師	5	5	
計	74	83	

・看護専門学校等との連携の下に、看護学生の実習を平成24年度合計1,606人（前年度比72人増）受け入れた。

(参考)看護実習受入実績		(人)	
区分	平成23年度	平成24年度	
保健福祉大学	160	306	
衛生看護専門学校	197	203	
よこはま看護専門学校	613	321	
平塚看護専門学校	75	155	
その他	489	621	
計	1,534	1,606	

### (3) コメディカル職員等の確保と研修の充実

コメディカル職員等の確保と研修の実施（小項目43）

- ・コメディカル職員については、一般採用区分と医療機関等での勤務経験3年以上の者を対象とする経験者採用区分を設けたことにより、平成25年4月1日現在で前年同期比25人増となる305人を確保した。
- ・福祉職については、職場の実態に即し、相談・心理・介護の分野ごとに試験区分を設け、業務に応じた職員の確保に努めた。

【福祉職・コメディカル職種の採用状況】

職 種	一般	経験者	合計
福祉職	-	7人	7人
薬剤師	8人	3人	11人
診療放射線技師	2人	5人	7人
臨床検査技師	-	4人	4人
理学療法士	-	2人	2人
臨床工学技士	-	1人	1人
保育士	-	2人	2人
栄養管理科長	-	1人	1人

平成25年度採用者

- ・コメディカル職員の資質の向上のため、県機関、各種学会等が実施する外部研修に参加させ、専門知識の習得を図るとともに、チームワーク力強化研修を実施し、病院での職務を遂行するにあたり、コメディカル職員に求められるコミュニケーション能力の向上を図った。

・円滑な重粒子線治療施設運営を行うため、診療放射線技師を先行して重粒子線治療を行っている施設へ派遣するなどにより計画的な人材育成を図った。

#### (4) 勤務環境の改善の取組（小項目44）

・早出勤務や遅出勤務者、さらには準夜勤務、深夜勤務のある看護師などの医療従事者の勤務形態に合わせた保育を実施するため、保育時間の延長、週2日程度の24時間保育を引き続き実施した。

・こども医療センターにおいて、平成24年度に医療従事者宿舎の新築工事及び医師宿舎の改修工事が完成した。

・年次休暇を取得しやすくするような職場環境の整備のため、看護局長会議や事務局長会議などを通じて職員の年次休暇取得促進に向けた取組を推進した。

	平成24年	平成23年	平成22年
平均	9.6	8.7	8.4
暦年の取得日数			

・技能職員を対象に、タイムマネジメント研修及びモチベーション向上研修を実施し、時間の有効な活用法や仕事の取組方法について検討し、仕事を効果的・効率的に進めるための具体的な方法論についてグループワークを行った。

・ワークライフバランスを充実するため、短時間勤務職員や夜間専従常勤職員などの多様な勤務形態の導入に向けた検討を行った。

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 1 業務運営体制の確立

業務運営体制の確立の取組（小項目45）

- ・理事会において、法人運営にかかる重要事項について検討及び意思決定を行うとともに、新たに理事及び監事を構成員とする「経営戦略会議」を設置し、各病院の収益確保対策や費用の効率的執行に対する取組の情報を共有し、意見交換を行うなど、経営改善への取組を強化した。 理事会11回、経営戦略会議10回
- ・各所属の経営状況について相互に意見交換を行うことを目的に設置している経営会議の構成員を、所属長に次ぐ立場である病院長、副院長に改め、経営状況に係る報告及び分析をより実務レベルで行うこととした。 経営会議7回
- ・看護部門の積極的な経営への参画を目的として、平成25年4月1日付けで看護局長を副院長に登用した。
- ・診療の基盤となっているスタッフの考えや業務取組状況が直接法人幹部に伝わるよう、理事長とコメディカル部門の責任者との意見交換の機会を設け、職員の経営意識の向上を図った。
- ・これまでの診療収入の状況に加えて、人件費や材料費の執行状況について役員への報告を毎月の定例とすることにより、各病院の経営状況を法人幹部職員が適時に把握できるよう仕組みを構築した。
- ・新たな財務システムにより、費用の計上について発生日を基準とした集計を行い、月次の損益を正確に把握することが可能となったことから、月次決算を実施し、各病院の経営状況をきめ細かに把握し、収入・支出の執行管理を適時に行うこととした。
- ・これまで運用していた神奈川県の人事給与システムの暫定利用を改め、県立病院機構独自の人事給与システムを開発・導入した。

### 2 効率的・効果的な業務運営と経営改善

#### (1) 効率的・効果的な業務運営

##### ア 人事・予算の弾力的運用

##### (ア) 診療体制・人員配置の弾力的運用（小項目46）

雇用期間の定めのある職員については、業務の内容等に応じ、契約職員・非常勤職員・短期非常勤職員・再雇用職員などを多様な勤務形態で雇用し、診療体制の強化や正規職員の欠員補充に迅速に対応することによって、医療専門職員による継続的かつ的確な医療を行う体制を整えた。

##### (イ) 予算執行の弾力化（小項目46 - 2）

総長・所長等の判断により、各所属が実情に応じて予算の範囲内で柔軟に科目間の流用を行うことにより、医療ニーズの変化に適時に応じた病院運営を行った。

##### イ 事務職員の専門性の向上の取組（小項目47）

- ・病院経営や診療報酬等の病院特有の事務を行うための知識・経験を有する人材確保に向け、一般採用試験に加え、経験者採用試験を行い、20人の事務職員を採用し、平成25年4月1日付で本部事務局、各病院（総務課、医事課、経営企画課、地域連携室等）に配置した。
- ・事務職員を対象に、病院経営に係る基礎的能力等の向上を目的とした簿記研修や独立行政法人制度に関する研修等を引続き実施した。

- ・ 県立病院機構採用事務職員が配属所属以外の病院等において、業務を体験又は経験することを通じて、幅広い視野を持ち、自らの業務の改善に役立てることができる職員を養成するとともに、組織における人材育成の風土を醸成させていくことを目的に病院等での現場研修を実施した。

- ・ 県立病院機構幹部職員を対象に、病院経営における費用に対する意識（コスト意識）レベルを高めるとともに、経営における課題的確な認識、決断のタイミング、決断内容の正当性を確保するための具体的な方法論等、経営者に求められる能力の向上を図るため、県立病院機構幹部職員研修を実施した。

#### ウ 職員の経営参画意識の向上の取組（小項目48）

- ・ 意思決定機関である理事会とは別に、新たに「経営戦略会議」を設置し、役員間で直近の経営状況などを踏まえた議論を行った。

- ・ 診療の基盤となっているスタッフの考えや業務取組状況が直接法人幹部に伝わるよう、理事長とコメディカル部門の責任者との意見交換の機会を設け、職員の経営意識の向上を図った。

- ・ 事務職員を対象に病院経営に係る基礎能力・応用能力、企画能力、経営分析能力等養成、強化する取組として、病院経営に関する問題解決能力強化研修（全1回）を実施した。

- ・ 職員の経営参画意識を醸成するよう、質の高い安全な医療の実現をテーマとした業務改善等について、理事長表彰を実施するとともに、各病院の専門性・特性に応じた職員の創意工夫や地道な取組などについて、所属長表彰を実施した。39件（36団体及び個人3人）

- ・ 病院等での現場研修において、各病院が実施する研修受講者の院内運営会議への出席や本部事務局が実施する研修受講者の理事会や予算ヒアリング等への出席ができるよう研修メニューを整備することで、職員の経営参画意識を高める取組を充実、強化した。

- ・ 各病院において、経営会議の内容を速やかに職員に伝達するとともに、経営改善に係る講演会の実施、経営改善に関する会議の実施等により、職員の経営参画意識の向上に取り組んだ。

#### エ ITの活用による効率的な医療提供の推進（小項目49）

- ・ こども医療センターで入院部門は平成24年6月から、外来部門は平成24年9月から、電子カルテシステムを中心とした医療情報システムを稼働させた。

- ・ がんセンターにおいて、平成25年11月の新病院稼動に伴う電子カルテシステムの構築に着手した。

- ・ 足柄上病院、精神医療センター及び循環器呼吸器病センターで、電子カルテシステムの導入に向けた調査・検討を行った。

#### オ 効率的な事務執行の推進（小項目50）

- ・ 医薬品・検査試薬・診療材料について、共同あっせん調達を実施するとともに、入札時の予定価格については、ベンチマークシステムの活用等により、他医療機関との比較において適切な価格の設定に留意した。 医薬品値引き率 上期：10.70% 下期：11.67%

- ・ 消耗品の調達について、リバースオークション及び共同購入を実施し、スケールメリットを活かした廉価購入を進めた。

リバースオークション実施品目 5品種41規格 共同購入品目 6品種40規格

- ・ 契約関係規程の見直し等により、契約事務を効率化するとともに、インターネットによる物品購入を可能とし、廉価購入の取組を進めた。

## (2) 経営改善の取組

### ア 収益の確保

収益の確保の取組（小項目51）

- ・病床利用率は、足柄上病院及びがんセンターで目標値を達成した。
- ・平均在院日数は、全ての病院で目標値を達成した。特に、足柄上病院及びがんセンター以外の4病院では、前年度との比較においても大幅に短縮をした。
- ・入院実患者数は、全ての病院で目標値を達成した。

病床利用率・平均在院日数・入院実患者数の実績(平成24年度)

病院名	病床利用率	平均在院日数	入院実患者数
足柄上病院	78.7%	12.2日	6,384人
こども医療センター(病院)	82.6%	14.3日	7,180人
(施設)	84.5%	(77.5日)	434人
芹香病院	62.9%	115.5日	802人
せりがや病院	55.8%	42.7日	426人
がんセンター	77.8%	14.0日	8,703人
循環器呼吸器病 (一般)	77.0%	12.2日	4,188人
センター (結核)	58.1%	(66.1日)	274人

病床利用率・平均在院日数・入院実患者数の実績(平成23年度)

病院名	病床利用率	平均在院日数	入院実患者数
足柄上病院	74.5%	11.9日	6,215人
こども医療センター(病院)	82.8%	15.4日	6,736人
(施設)	85.6%	(77.9日)	429人
芹香病院	65.9%	123.5日	797人
せりがや病院	61.2%	52.3日	386人
がんセンター	72.2%	14.3日	7,967人
循環器呼吸器病 (一般)	80.0%	13.0日	4,157人
センター (結核)	61.4%	(64.5日)	241人

新たな施設基準の取得（小項目52）

- ・診療報酬改定を踏まえた施設基準を迅速に取得するとともに、既存の施設基準についても適確な内容とするよう見直しを行った。

- ・平成24年度新たに取得した主な施設基準は次のとおりである。

[ 足柄上病院 ]	院内トリアージ実施料
[ こども医療センター ]	児童・思春期精神科入院医療管理料 感染防止対策地域連携加算 人工尿道括約筋植込・置換術
[ 芹香病院 ]	精神科救急搬送患者地域連携紹介加算 治療抵抗性統合失調治療指導管理料
[ せりがや病院 ]	ニコチン依存症管理料
[ がんセンター ]	移植後患者指導管理料（造血管細胞移植後） 感染防止対策地域連携加算 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
[ 循環器呼吸器病センター ]	検体検査管理加算( ) 時間内歩行試験

診療報酬を確保するための総合的な取組（小項目53）

定期的な督促や出張回収の実施、債権回収会社の活用等により未収金の回収を進めるとともに、患者や家族からの相談に応じ、発生防止にも取り組んだ。

[ 年度末個人未収金の状況 ]

年度	合計
平成24年度末	287,125,368円
平成23年度末	297,505,367円
差引	10,379,999円

## イ 費用の削減

材料費節減の取組（小項目54）

・一般の病院では実施が困難な高度専門医療を中心に実施していることから、後発医薬品の適用範囲が限られる中、安全性に十分配慮しつつ、各病院の薬事検討会議等において使用拡大に取り組み、品目ベースで採用率が増加させた。

・医薬品・検査試薬・診療材料に係る共同あっせん調達において、ベンチマークシステムの活用等により、適切な価格の設定に留意した。

医薬品値引き率 上期：10.70% 下期：11.67%

・消耗品の調達について、リバースオークション及び共同購入を実施し、スケールメリットによる廉価での購入に取り組んだ。

リバースオークション実施品目 5品種41規格

共同購入品目 6品種40規格

・契約関係規程の見直し等により、インターネットによる物品購入を可能とし、廉価購入の取組を進めた。

[ 後発医薬品の品目採用率及び金額採用率の実績 ]

区分	平成23年度	平成24年度
品目	12.8%	13.4%
金額	5.7%	5.1%

平成24年度実績

[ 病院別の後発医薬品の採用率の内訳 ]

病院名	品目数	金額
足柄上病院	12.3%	10.3%
こども医療センター	6.0%	2.4%
芹香病院	12.6%	6.4%
せりがや病院	13.7%	6.1%
がんセンター	11.5%	5.7%
循環器呼吸器病センター	13.2%	5.5%
合計	13.4%	5.1%

経費節減の取組（小項目54 - 2）

・財務会計システムを活用した月次決算の実施により、本部事務局において各病院の収支執行状況を一元把握するなど、費用の適正執行のための管理体制を構築した。

・「棚卸マニュアル」を作成し、医薬品等の在庫管理方法を共通化し、滞留在庫の発生防止に取り組んだ。

・足柄上病院における調理業務の委託化並びに循環器呼吸器病センターにおける物流管理システムの導入及び中央材料室滅菌業務の委託化のための検討及び調整を行った。

- ・債権者への支払手数料を縮減するため、債権者コードの一本化を図ったほか、県立病院機構のメインバンクと同一金融機関への振込を徹底した。

[ 足柄上病院 ]

- ・電気料金の年間契約にあたり、基本契約電力量の見直しを行い、光熱水費の節減（723千円）を図った。
- ・委託事業について、契約期間を1年から複数年に見直すことにより、年間あたりの経費を削減(900千円)した。

[ こども医療センター ]

- ・電気料金の年間契約にあたり、基本契約の内容の見直しを図ったこと及び太陽光発電設備を設置したことで、光熱水費(8,505千円+1,300千円)の節減を図った。
- ・職員宿舎として一棟借り上げしていたアパートについて、医師宿舎や医療従事者宿舎の整備状況を踏まえ、賃借契約を打ち切り、賃借料(4,003千円)の節減を図った。

[ 精神医療センター ]

- ・病院内の各所営繕工事において、管理委託業者へ必要な消耗品を支給し、修繕することにより、専門業者への発注件数を削減し、経費削減を図った。

[ がんセンター ]

- ・平成24年度光熱水費のうち電気料については、東京電力の値上げ(従量料金約36.5~39%)に対して、基本契約の見直し等により、平成23年度比で約23%(金額約3千万円)の増加に押さえた。

[ 循環器呼吸器病センター ]

- ・老朽化した誘導灯の交換にあたっては、電気使用量の削減を図る観点から、LED灯を採用した。

### 第3 決算の状況（小項目55）

- ・ 「平成24年度における業務実績報告 3病院ごとの取組状況（10、12、14、16、18ページ）」を参照
- ・ 県立病院機構全体の経常収支比率は102.1%となった。なお、医業収益に対する給与費の比率は69.2%、医業収支比率は125.4%となった。

#### [決算状況]

##### (1) 県立病院機構全体

経常収支比率 102.1%  
医業収益に対する給与費の比率 69.2%  
医業収支比率 125.4%  
総損益 821百万円

##### (2) 足柄上病院

経常収支比率 98.4%  
医業収益に対する給与費の比率 76.1%  
医業収支比率 129.4%  
総損益 107百万円

##### (3) こども医療センター

経常収支比率 101.7%  
医業収益に対する給与費の比率 72.4%  
医業収支比率 128.7%  
総損益 214百万円

##### (4) 芹香病院

経常収支比率 97.2%  
医業収益に対する給与費の比率 139.3%  
医業収支比率 193.7%  
総損益 131百万円

##### (5) せりがや病院

経常収支比率 99.3%  
医業収益に対する給与費の比率 125.9%  
医業収支比率 180.7%  
総損益 5百万円

##### (6) がんセンター

経常収支比率 107.9%  
医業収益に対する給与費の比率 52.2%  
医業収支比率 109.1%  
総損益 942百万円

##### (7) 循環器呼吸器病センター

経常収支比率 103.3%  
医業収益に対する給与費の比率 55.1%



医業収支比率 119.4%

総損益 195百万円

#### 第4 その他業務運営に関する重要事項（小項目56）

##### 人事に関する事項

##### (1) 適切な職員配置について

- ・事務職員については、中長期的に安定的かつ計画的な病院運営を行い、県立病院の役割を果たすため、県立病院における業務に精通した県の事務職員の割愛採用制度を導入し、平成25年4月1日付けで5人を採用した。
- ・医療従事者については、医師等スタッフの配置の弾力化、多様な雇用形態の活用等により、医療ニーズの変化及び患者動向に適切に対応した効果的な人員配置を行った。
- ・がんセンターの重粒子線治療装置の導入に向けた体制の充実や精神医療センターの医療観察法病棟の開設など医療ニーズや医療環境の変化等に的確に対応するとともに、円滑な病院運営を行なうために、平成24年度中に正規職員331人（医師70人、看護師199人、コメディカル職種34人、事務等28人）を採用した。
- ・こども医療センターでは、4月からゲノム解析研究部門に2名、病態機能解析研究部門に1名の研究員を配置し、国内最多のマイクロアレイ染色体検査を実施したほか、次世代シーケンサーを用いた遺伝子解析研究、再生医療研究など様々な研究を実施した。

##### (2) 的確な人事管理について

- ・職員がよりステップアップした能力開発を行えるよう、医師や看護師等医療従事者の職務の実態を踏まえた評価項目・要素を設定し、職員の臨床能力や職務運営能力を的確に把握するとともに、昇任昇格や昇給、勤勉手当への反映など人事上の処遇への活用を図るための新たな人事評価制度を構築し、平成24年度から全ての職種について実施した。